

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

日本大百科全書

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

3

うえ—おおち

小学館



日本大百科全書 3

©SHOGAKUKAN 1985
昭和60年4月20日 初版第一刷発行
定価 7,800円

編集著作 相賀 徹夫
出版者

発行所 小学館

郵便番号 101
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
振替 東京 8-200番
電話 編集・東京03-230-5620
業務・東京03-230-5333
販売・東京03-230-5763

印刷所 凸版印刷株式会社

本文 (特抄百科用紙) 王子製紙株式会社

口絵 (特抄アート紙) 三菱製紙株式会社

表紙 (特製クロス) ダイニック株式会社

製本 凸版印刷株式会社
若林製本株式会社

*本書に掲載した日本関係地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図、20万分の1地勢図を使用したものです。
別刷「大阪市」地図の作成にあたっては、建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図を使用しました(測量法第30条に基づく成果使用承認 昭60近使、第3号)
*造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。
*本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

ISBN4-09-526003-3

うえ

うえいと

上(村) うえ(むら) 熊本県南部、球磨郡にある村。国鉄湯前線免田駅からバスが通じる。日向国(宮崎県)と境をなす南半は白髪岳・国見山の山岳地帯で、北半は免田川の開析する低地(沖積層)・台地(段丘礫層)である。村の三分の二は山林で覆われているが、林業の地位は低い。主産業は米麦生産からの脱却を目ざす農業にあり、近年、葉タバコ、養豚、酪農などが盛んである。また、いもご土壤(ガラス質に富む火山灰土)のため開発の遅れた原野は、牧場となっている。人口六〇三七。〈山口守人〉

飢え うえ hunger 空腹時の欲求の状態。で、渇きや性の欲求と同様に代謝によって必然的に生じる生理的不均衡の結果、これを回復しようとする一次的要求または動因である。↓食欲 ↓飢餓

飢え うえ Sait ノルウェーの作家ハムスの長編小説。一八九〇年刊。欧米には珍しい私小説的作品で、貧しい文学青年のその日暮らしの生活をたどるだけで、筋もなく社会生活も描かれていない。机一つない間借り部屋、それも間代がたまってぐあいが悪く、主人公は公園のベンチで原稿を書こうとするが、インスピレーションはわかない。食い詰めて、果ては犬にやるのだといって肉屋から骨をもらってしゃぶるが嘔吐してしまう。まれに原稿が売れても貧しい友におごったりして、たちまち生活に窮するが、気まぐれの詩人気質はそんな無償の戯れをやめない。最後は万策尽きて貨物船の火夫としてアメリカへ渡ることになるが、主人公は依然として昂然としている。すばらしく弾力のある筆致と不屈のロマン精神は世界を驚倒させた。〈山室 静〉

回山室静訳『飢え』(『ノーベル賞文学全集4』一九七・主婦の友社)▽宮原晃一郎訳『飢え』(角川文庫)

ウエイイ Wei 古代イタリア中央部、エトルリアの都市国家。ローマ市の北約一八〇、現在のイゾラ・ファルネーゼに位置し、町は難攻不落の自然の要塞に囲まれていた。紀元前八世紀ごろから穀物生産、工芸品製作、塩業などで発展し、ティベリス川(現在のテベレ川)河口に至るまでの広大な領域を支配して前六世紀中葉に全盛期を迎えた。早くからローマとかかわりを持ち、前六世紀ローマのユピテル神殿の装飾を担当したのは、ウエイイの彫刻家ウルカ Vulca 一派だったといわれる。前四七七年ウエイイ軍はクレメラ河畔の戦いでローマのファビウス Fabius 一族を破ったが、前四三七年ウエイイ王トルムニウス Tolumnius はローマの將軍に打ち取られ、前三九六年ウエイイはカミルス麾下のローマ軍に占領された。征服後ウエイイ領はローマに併合され、その町は帝政期には廢墟と化した。現在、神殿と墓の跡が残るだけであるが、神殿跡からはエトルリア美術の代表作アポロ像が出土している。〈平田隆一〉

ウエイイ川 —がわ 〇渭河

ウエイイトレーニング

ウエイトリフティング weight lifting 選手を体重別の一〇階級に分け、バーベルをスナッチとジャークの二つの方法で各三回ずつ挙上し、そのうちの最高挙上記録で順位を決める競技。重量あげともいう。

(歴史) 物を持ち上げるという能力は人類の発生段階ですでにみることができ、物を持つという特性は、外敵から身を守る攻撃、防御の手段として、また衣、食、住を得るための技能として大きな力になったと考えられる。しかし、これらのことについて資料を得ることはまったく不可能で、推測のほかない。

『旧約聖書』に登場するヤコブ、サムソン、ダビデらの神

ウエイトリフティング／世界記録

階級	種目	記録(kg)	氏名	国名	年度
52kg	スナッチ	115.5	N. テルジンスキー	ブルガリア	1983
	ジャーク	152.5	N. テルジンスキー	ブルガリア	1984
	トータル	262.5	N. テルジンスキー	ブルガリア	1984
56kg	スナッチ	131.5	N. スレイマノフ	ブルガリア	1984
	ジャーク	170	N. スレイマノフ	ブルガリア	1984
	トータル	300	N. スレイマノフ	ブルガリア	1984
60kg	スナッチ	138.5	A. アジゾフ	ポーランド	1984
	ジャーク	180	S. トプロフ	ブルガリア	1983
	トータル	315	S. トプロフ	ソ連	1984
67.5kg	スナッチ	155.5	V. グラチェフ	ソ連	1984
	ジャーク	196	J. クンツ	東ドイツ	1981
	トータル	345	J. クンツ	東ドイツ	1981
75kg	スナッチ	167.5	V. クズネツォフ	ソ連	1983
	ジャーク	210.5	Z. ストイチコフ	ブルガリア	1983
	トータル	370	A. パルバノフ	ブルガリア	1983
82.5kg	スナッチ	180.5	Y. パルダニアン	ソ連	1983
	ジャーク	223.5	A. ヘルビ	ソ連	1982
	トータル	400	Y. パルダニアン	ソ連	1980
90kg	スナッチ	195.5	B. ブラゴエフ	ブルガリア	1983
	ジャーク	232.5	V. ソロドフ	ソ連	1984
	トータル	420	B. ブラゴエフ	ブルガリア	1983
100kg	スナッチ	200	Y. ザハレビッチ	ソ連	1983
	ジャーク	241	P. クズネツォフ	ソ連	1984
	トータル	440	Y. ザハレビッチ	ソ連	1983
110kg	スナッチ	196.5	L. タラネンコ	ソ連	1983
	ジャーク	247.5	V. クロコフ	ソ連	1983
	トータル	440	V. クロコフ	ソ連	1983
+110kg	スナッチ	211	A. グニャシェフ	ソ連	1984
	ジャーク	261	S. ディディク	ソ連	1983
	トータル	465	A. グニャシェフ	ソ連	1984

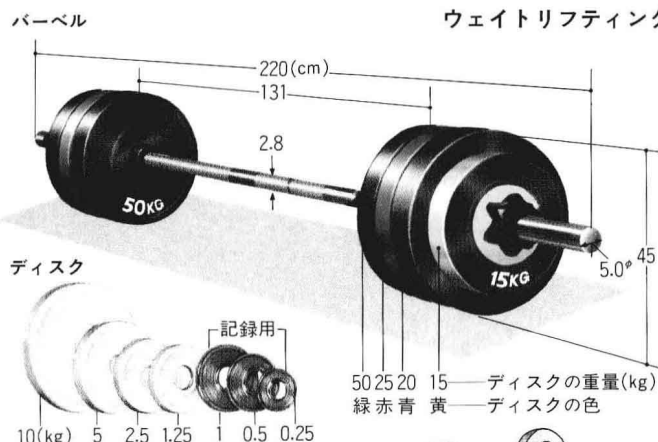
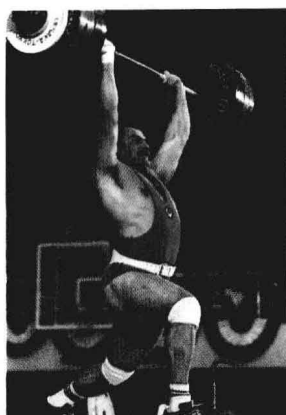
注：1984年9月1日現在

話、伝説は、初期のヘブライ人たちが好んで豪力を賞賛した事実を物語っている。わが国でも神話に出てくる天岩戸を引き開いた天手力男(あめのぢからのおおみけ)は、この種の力にまつわる話が多い。江戸末期から明治のころまで、村の祭礼や年中行事などの呼び物として盛んに行われた大石を持ち上げる力競べは、素朴な形でのウエイトリフティングといえる。今日、全国各地の社寺に奉納されている卵形の大きな玉石は、力を競って挙上したいいわゆる力石で、バーベルに相当する。古代オリンピック競技は、神に捧げるための祭典競技で、競技がいつも神域から離れることのなかったように、力石も単なる力競べや祭礼の余興としてのほか、神への供物としての意味もあった。↓力石

古代オリンピックの時代、多くの豪力たちが現れ、体育史では「力技時代」として知られているが、オリンピック種目としてウエイトリフティングが登場したのは、一八九六年近代オリンピックの第一回アテネ大会以降である。このころの競技方法には、片手による挙上方法と両手による挙上方法があった。一九二〇年第七回アントワープ大会では、体重を五階級に分ける体重制度が創設され、二八年第九回アムステルダム大会から、両手によるプレス、スナッチ、ジャークの三種目で行われるようになったが、七二年第二〇回ミュンヘン大会後、プレスは廃止されている。なお、六〇年代には、オッドコンテストの名で現在のパワーリフティングが行われたことがある。↓パワーリフティング

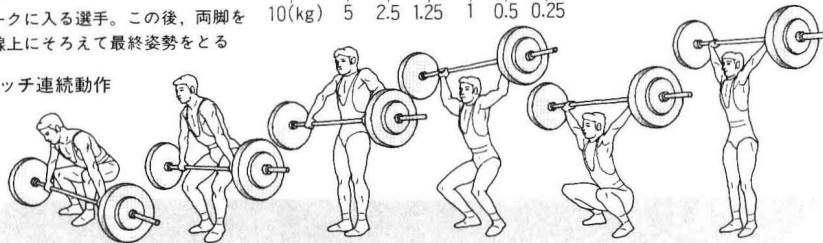
日本のウエイトリフティング 一九四〇年(昭和十五)に予定した東京オリンピック大会の準備として、三四年三月、嘉納治五郎国際オリンピック委員が、オーストリアから正式なバーベル一式を輸入した。このバーベルは、当時、東京・代々木にあった文部省体育研究所に運ばれ、ウエイトリフティングの技術研究と練習が行われ、普及のための講習会も開かれた。わが国最初のウエイトリフティング競技会は三六年五月二日の東京市民選手権大会である。同月三十一日には文部省体育研究所で第一回全日本選手権大会が、体操連盟の一行事として実施された。三七年九月二七日に日本重量挙げ連盟が結成され、日本体育協会や国際連盟にも加盟した。結成後まもなく世界記録樹立者が誕生するなど急成長を遂げたが、第二次世界大戦のため一時中断した。戦後いち早く組織は再建され、四六年の第一回国民体育大会に参加、このとき

ウェイトリフティング

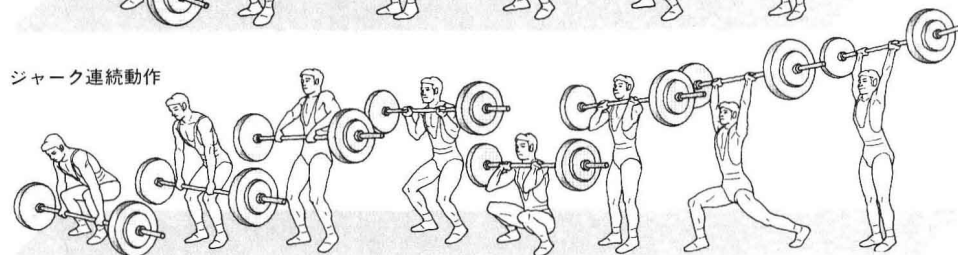


ジャークに入る選手。この後、両脚を同一線上にそろえて最終姿勢をとる

スナッチ連続動作



ジャーク連続動作



全日本選手権大会を兼ねて開催された。オリンピック初参加は五二年の第五回ヘルシンキ大会である。このときバンタム級白石勇選手が出場したが、負傷のため失格した。六〇年第二七回ローマ大会では三宅義信がバンタム級で二位となり、六四年第一八回東京大会、六八年第一九回メキシコ大会で三宅はフェザー級に階級を変え連続優勝している。現在、国際ウェイトリフティング連盟に加盟している国は一二か国に達し、ソ連をはじめとする東欧諸国が圧倒的強さを誇り、自由圏諸国のなかでは日本が一位以内によくどまっている。

【施設・用具】厚さ五センチから一五センチの四角四方のプラットフォーム（競技台）がステージ上に設置され、規格化された公認バーベルが使用される。バーベルはバー（棒）とディスク（円盤）、カラー（留め金）で構成され、重量はバーが二〇キ、ディスクは五〇キ（緑色）、二五キ（赤）、二〇キ（青）、一五キ（黄）、一〇キ、五キ、二・五キ、一・二五キ、カラー二・五キの内容である。また、世界記録用に一キ、五〇〇キ、二五〇キがある。ユニフォームはワンピースの水着型、下着にＴシャツを使用してもよい。ベルトは幅一二センチ以下であれば使用できる。サポーターやバンデージについても細かく制約がある。

【競技方法】体重別の階級は、五二キ以下、五六キ以下、六〇キ以下、六七・五キ以下、七五キ以下、八二・五キ以下、九〇キ以下、一〇〇キ以下、一一〇キ以下、一一〇キ超の一〇階級である。検量は全裸（ブリーフ着用可）で競技会開始二時間前より一時間内に行われるが、計量器にのるのは一回と定められている。しかし、体重の過不足のときは再検量が許される。種目はスナッチ、ジャークの順に二種目が行われる。スナッチは、試技の最終段階で肩がよく決まるように、バーを幅広く握り、一気に頭上まで引き上げる。ジャークは、バーベルをいったん肩まで引き上げる第一動作（クリーン）、反動を使って頭上に差し上げる第二動作（ジャーク）からなっている（図参照）。

スナッチ、ジャークとも三回の試技ができ、順次バーベルの重量を上げていく。第一試技に成功して第二試技に移るときは五キ以上、第二試技成功から第三試技へは二・五キ以上、増量しなければならぬ。試技不成功のときでも重量を下げることはできず、同一重量以上で行う。選手はコールされてから二分間以内に試技に入らなければならない。一人が連続して試技を行うときは三分間以内となる。勝負は、スナッチ、ジャーク別の最高記録と、その合計の三種類がある。記録が同じときは、検量時の軽量者が上位となり、同体重の場合は、試技終了後ただちに再検量を行う。それでも同体重の場合は同位を分けることになる。

審判は、レフェリー（三人）とジュリー（三～五人）があり、レフェリーの多数決で判定が下される。レフェリーの判定に問題があるとき、ジュリーは判定の変更を求めるが、レフェリーの交替を命じる権限をもっている。反動動作のおもなものは次のとおりである。

(1) スナッチで、バーが頭に触れた場合。
(2) ジャークで、①第一動作に際して肘または腕が膝から大腿部に触れた場合、②第二動作で反動を二回以上行った場合。
(3) スナッチ、ジャークの共通反動として、①引きの途中で一度停止する。②足底以外の身体の一部が床に触れる。③挙上最終段階の腕の伸長過程で、バーベルの一時停止、両腕の不均等な伸長、よく伸びきらない、押し上げる。④最終姿勢で腕が屈伸する。⑤プラットフォームから足を踏み出す。⑥レフェリーの合図後にバーベルを下ろす。⑦レフェリーの合図後にバーベルを落とす。⑧最終姿勢で両足を平行に戻さない、などである。

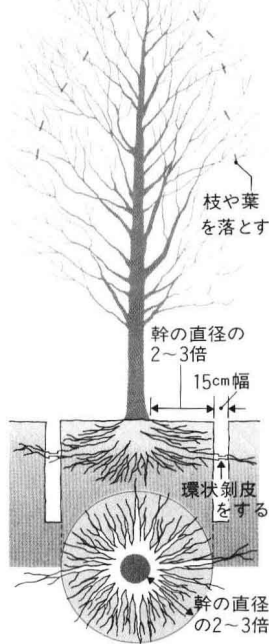


J. ウェイン

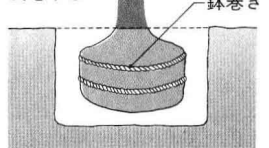
ウエイン John Wayne (1907-1980) アメリカの映画俳優。アイオワ州生まれ。大学在学中から演劇を志し学生劇に出演、一九二八年エキストラとして映画界入り、ラウオール・ウォルシュ監督の『ビッグ・トレイル』（一九三〇）でデビューした。以来Ｂ級西部劇に出演していたが、ジョン・フォード監督の『駅馬車』（一九三九）の主演の一人に抜擢されて以来、おもに西部劇でハリウッドの代表的スターとなった。『果てなき船路』（一九四〇）、『赤い河』（一九四一）、『静かなる男』（一九四二）、『ハタリノ』（一九四六）などの代表作があり、六九年に『勇気ある追跡』でアカデミー主演男優賞を受賞。『アラモ』（一九六〇）、『グリーン・ベレー』（一九六六）では監督も兼ねた。癌で死去。

ウエイド Vladimir Vasilievich Veyde (1919-1980) ロシアの芸術史家。ペテルブルグに生まれる。一九一六年ペテルブルグ大学史学科卒業。二一～二四年同大学で芸術史を講義。二四年パリに亡命、三二年正教神学校教授となりキリスト教芸術史を担当。文芸批評、美術批評にも筆を振る。『芸術の滅亡』（一九三〇）邦訳名『芸術の運命』では宗教を離れた現代芸術の諸相を分析、その再生の道を宗教との新たな結び付きのうちに暗示した。これを敷衍したのが『アリストテレスの蜜蜂』（一九五五）である。ロシア文化をめぐる著作も多く、『ロシア、その不在と現存』（一九五九）邦訳名『ロシア文化の運命』では、現代ソビエトにおける反文化のよってきたるゆえを説明している。

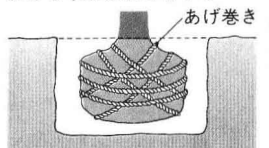
ウエイパ Weipa オーストラリア、クイーンズランド州北部、ヨーク岬半島西岸のボーキサイト鉱山町。人口二四三三（一九六六）。埋蔵量（約三〇億トン）は世界最大級。採掘されたボーキサイト（年産約九〇〇万トン）は、グラッドストンのアルミナ精錬所へ送り、海外へも輸出する。一九五六年建設。

植木
移植の準備

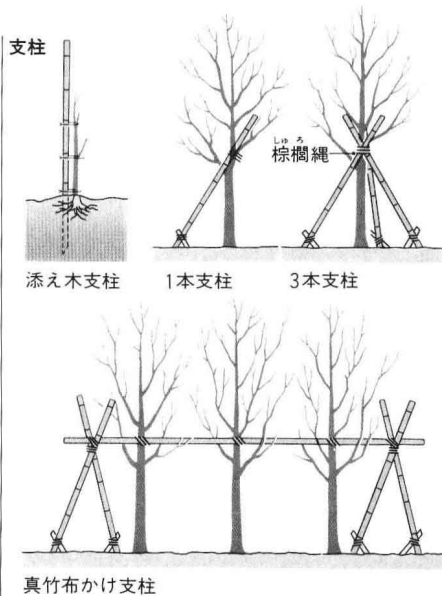
大きな木で移植の1年前、小木で3～4か月前に根元の幹の直径の2～3倍のところで根切りする。太い根は環状剥皮をする



常緑樹は根元直径の4倍、落葉樹は5～6倍を掘り取る。大きな木は根巻きをする



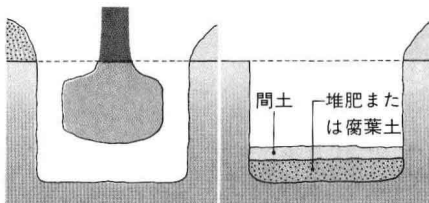
縄を引っ張りながら木づちでたたき、根の土を落とさないよう鉢巻き、あげ巻きの順に根巻きをして根ばちをつくる



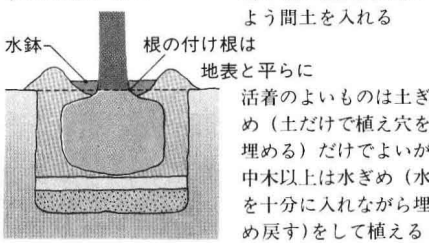
真竹布かけ支柱

移植した樹木が風などに揺り動かされ、伸び始めた根が損傷を受けることを防止するため支柱を立てる。大きな木は3本支柱や布かけ支柱、苗木などは添え木支柱とする。支柱と樹木は棕櫚縄などで結び、樹木との間には杉皮などを挟み傷がつかないようにする

植付け作業



植え穴は、周囲、深さとも根ばちより大きく(20%程度)掘る



元肥として堆肥または腐葉土などを入れ、肥料が根に直接触れないよう間土を入れる

水鉢 根の付け根は地表と平らに活着のよいものは土ぎめ(土だけで植え穴を埋める)だけでよいが中木以上は水ぎめ(水を十分に入れて埋め戻す)をして植える

「移植上の作業」大きな木や数年以上植え込まれた木は、太根が切られるため移植がむずかしいので、根回しといって一年前に幹の直径の二、三倍のところで円形に根切りして細根が出るようにしておく、翌年移植しても活着しやすい。掘り上げるときには根に土が十分ついていないのが望ましく、土を振るい落とすと移植いたみが激しいので、根についた土を落とさないように根を巻くことを根巻きといい、土に根を

「手入れと病害虫防除」若木のうちは生長が旺盛で徒長枝、交差枝、車枝が出やすいので、年二回程度刈り込みを兼ねて整枝剪定し樹形をつくる。時期は、常緑樹は新芽の出るころから梅雨ごろまでに、落葉樹は新葉の出る前と梅雨ごろに一度徒長枝をとり樹冠を整える。施肥管理は、冬期は有機物(堆肥、鶏糞、油かすなど)、成長期の春から秋にかけては化成肥料を主として用いる。植木の葉は病害虫に侵されると美しさを損ない生育も悪くなるので、冬期から秋まで定期的に殺虫剤、殺菌剤を散布して予防と防除を兼ねておく。

ウエイン John Wain (一九二一～) イギリスの小説家、詩人、批評家。オックスフォード大学卒業。K・エーミス、J・ブレイン、J・オズボーンらと並ぶ「怒れる若者たち」の一人。初めは反抗的な姿勢を過大評価されたが、根本は空虚な現代文化に対して人間の尊厳を守ろうとする常識人である。小説家としての優れた描写力と、批評家としての明晰な判断力をもつ。地方性を脱するとともに、ふたたび現代イギリス社会の批判者に転じた。『小野寺健』(中川敏訳『親父を殴り殺せ』(一九九〇・晶文社)▽北山克彦訳『急いで下りろ』(一九七〇・晶文社)

上尾庄次郎 うえおしょうじろう (一九〇九～) 薬学者。京都の薬業家に生まれる。東京帝国大学卒業。近藤平三郎の指導を受け、ヒガンバナのアルカロイド・リコリンの化学構造の研究で薬学博士となる。京都帝国大学助教授を経て大阪大学教授、京都大学教授。その間、機器分析のきわめて困難な時代にヒガンバナアルカロイドの本質解明を追及し、化学的分解と分解物の合成によって構造を確実に証明した。この研究により一九七〇年(昭和四五)日本学士院賞を受けた。さらに未解決のビャクブ、イチイ、オコテンシン、セルペンチニンなどのアルカロイドおよびアビエストラクトン、エンメンインほかの非アルカロイドの研究を完成した。京都大学名誉教授。県立静岡薬科大学長、同名誉教授。日本薬学会会頭、同名誉会員。『根本曾代子』

親方 うえかた 近世沖縄の位階の一つ。紫冠をいただく正一品から従二品の品級の者で、間切あるいは村を領する地頭であることから、領邑名を冠して「〇〇親方」と称するのが通例である。親方の上は按司、その下は親雲上(ペーチン)であり、按司は国王の一族に限られるので、親方は琉球王国における一般士族が上りうる最高位の位階であった。語源については「役職にある人」を意味する「オエカ」に複数形の「タ」がついたものだといふ有力な説がある。↑沖縄県)『歴史』(高良倉吉)

ウエーガン Maxime Weygand (一八六〇～一九六五) フランスの軍人。ベルギーのブリュッセルに生まれ、外国籍のままサン・シール陸軍士官学校に入學し一八八八年フランスに帰化。第一次世界大戦中にフォッシュ元帥の参謀長として偉功をたてた。一九二〇年ロシア赤軍の反攻にさらされたポーランドに軍事顧問として派遣され同国の危機を救った。二三年シリア高等弁務官、三〇年陸軍参謀総長と要職を歴任し、三五年に退役したが、第二次世界大戦勃発とともに三九年近東軍総司令官に復帰。四〇年五月敗色の濃いなかで連合軍総司令官に就任したが、ドイツとの休戦を主張し、同年ベタン対独協力政府の国防相、ついで北アフリカ軍総司令官となった。ドゴールにもドイツにも協力を拒んだため四二・四五年ドイツに抑留され、戦後は対独協力容疑をかけられたが四八年無罪となった。一九三一年以来のアカデミー・フランセーズ会員で『フランス陸軍史』『回顧録』などの著書がある。『平瀬徹也』

植木 うえき 人工的に栽培、管理されている園芸樹木をいう。用途や目的により植木として用いられる樹種は異なるが、美しい緑の葉をもち、あるいはその葉が変化し、まとまった樹冠を形成し、また乾燥や湿気、温度変化、病虫害などに強いものが植木として望ましい。植木が半完成木あるいは完成木となるまでには、苗木増殖(実生、挿し木、取り木、株分け)、苗木仕立て、肥培管理などの手順を経るので、

「植付け」常緑樹では春と秋が適期で、落葉樹は落葉後の秋から新芽の出る前の春までがよい。植付けに際しては植木の根ばちより大きい植え穴を掘り、穴に堆肥、腐葉土などの有機物を入れ、その上にすこし間土を入れて、肥料が根に直接触れないようにする。植木を植え穴に納めたら、土ぎめ、水ぎめといつてすこし土を入れ、根ばちとよく混合するように水を入れて棒で突きながら土をかける。植付けが終わったら支柱を立てて倒れないようにする。

「手入れと病害虫防除」若木のうちは生長が旺盛で徒長枝、交差枝、車枝が出やすいので、年二回程度刈り込みを兼ねて整枝剪定し樹形をつくる。時期は、常緑樹は新芽の出るころから梅雨ごろまでに、落葉樹は新葉の出る前と梅雨ごろに一度徒長枝をとり樹冠を整える。施肥管理は、冬期は有機物(堆肥、鶏糞、油かすなど)、成長期の春から秋にかけては化成肥料を主として用いる。植木の葉は病害虫に侵されると美しさを損ない生育も悪くなるので、冬期から秋まで定期的に殺虫剤、殺菌剤を散布して予防と防除を兼ねておく。

「移植上の作業」大きな木や数年以上植え込まれた木は、太根が切られるため移植がむずかしいので、根回しといって一年前に幹の直径の二、三倍のところで円形に根切りして細根が出るようにしておく、翌年移植しても活着しやすい。掘り上げるときには根に土が十分ついていないのが望ましく、土を振るい落とすと移植いたみが激しいので、根についた土を落とさないように根を巻くことを根巻きといい、土に根を

絡ませて葉縄で締めて根ばちをつくる。

植木としての花木は花芽分化の時期があるので、整枝剪定はその性質をよく知り尽くしてから行うのがよい。花期終了後に行うと安全なものが多い。↓庭木 ↓剪定 (堀 保男)

④上原敬二著『樹芸学叢書』全八巻(一九六〇) 六・加島書店

植木(町) うえき(まち) 熊本県北西部、鹿本郡にある町。一八八九年(明治二二)町制施行。一九五五年(昭和三〇)吉松、山本、山東、田原、桜井、菱形の六村と合併。六九年田底村を編入。一六八八年(元禄一)宿場ならびに在郷町としての体裁を整え、味取新町といったが、その後、町を開むうっそうとした平地林「植木の森」にちなんで改称。南西部は金峰火山に連なる低山地、北東部に菊池川水系の沖積低地がみられる以外は、すべて段丘礫層よりなる台地で、畑作地帯となっている。そのなかに国道三号、九州自動車道が通じ、植木インターチェンジが設置されている。さらに、南部では鹿兒島本線、国道二〇八号が走っており、県北の交通の要地をなしている。これに加え、南部では、県都熊本市に近接していることが、宅地化、工場進出の好条件をつくりだし、熊本市の衛星都市的性格も備わり始めている。第二次世界大戦前、養蚕地域の一翼を担った台地では、葉タバコ、野菜栽培が久しく続けられてきたが、昭和四〇年代前半からの施設園芸農業の定着、拡大とともに、スイカの早出し産地となっている。町域の西に位置する田原坂は西南戦争の激戦地として知られる。人口二万七〇〇二。

〔植木温泉〕平島温泉(弱アルカリ性単純泉)と宮原温泉(単純炭酸鉄泉)をあわせて植木温泉という。田園地帯にある新興温泉であるが、国道三号沿いの便利な位置にあるため、年々行楽、保養客が増えている。

〔山口守人〕 二万五千分の一地形図「植木」「来民」

植木市 うえきいち 江戸中期、一八世紀から盛んとなった植木屋の露店市。都市の緑日に、自家で栽培した植木をはじめ草花、盆栽、苗木などを持ち寄った。初めは、その集住地域の社寺の門前などで開かれたが、のちには大都市周辺の集住地域、たとえば江戸周辺の安行(川口市北東部)などから持ち寄るようになった。いまはないが、一九世紀前半の江戸・日本橋茅場町の薬師堂前の植木市は、そこに集住する植木屋によって月二回開かれた。その一画は



植木市 江戸・日本橋茅場町薬師堂の緑日(毎月8日・12日)に立った植木市。『江戸名所図会』

植木店ともいわれ、組合をつくり他所の職人に対して場所割に優先権をもっていた。近代からは、集住地域でかならずしも緑日に関係なく開かれ、植木、苗木、切り花の常設の市もできてきた。また、季節の特定の草花の市、たとえば入谷の鬼子母神の朝顔市や、浅草観音のほおずき市が緑日にちなんで始まった。ほかに、山形薬師祭(山形市)、二本松市(福島県)、稲沢市(愛知県)、池田市(大阪府)などの植木市が有名である。

〔遠藤元男〕

植木枝盛 うえきえもり (一八七一—一九二二) 明治前期の思想家、自由民権論者。安政四年一月二〇日、土佐国土佐郡井口村(高知市)に生まれる。父直枝は土佐藩の中等の藩士。藩校致道館で学び、一八七四年(明治七)板垣退助の演説を聞いて政治に発奮した。七五年上京し、明六社の演説会や慶応義塾の三田演説会、キリスト教会の説教などを聴講しながら、西洋近代思想の独学に励んだ。七六年『郵便報知新聞』に投書した「猿人政府(さるじんせいふ)」で二か月間投獄されたことが民権への志を深め、出獄後『湖海新報』に投書した「自由は鮮血を以て買はざる可

らざるの論」では、人民の革命権を主張している。七七年高知へ帰り立志社に入り、国会開設を要求した「立志社建白書」起草し、以後板垣のブレーンとして民権理論の普及と運動の発展に生涯を賭けることになる。七八年愛国社再興のため西日本各地を遊説し、土佐州会の議員に選ばれた。八〇年には愛国社の機関誌『愛国志林』の編集、国会期成同盟や第一次自由党(自由党準備会ともいわれる)に参加、八一年には私擬憲法中もつとも民主主義に徹底した「日本国憲法」を起草し、さらに自由党結成に参画した。八二年には官憲の圧迫に抵抗しながら京都で増税反対の「酒屋会議」を開き、その後も『自由新聞』の編集や遊説など精力的な活動を続けた。自由党解党後の八五年に高知に帰り、土陽新聞の編集や高知県会議員として地方自治、婦人解放などに取り組んだ。九〇年第一回衆議院議員選挙に高知三区から当選したが、第一議会で、いわゆる土佐派議員の一員として民党敗北に加担し、立憲自由党を脱党した。のち自由党に復帰し、第二回総選挙立候補を準備中の明治二五年一月二三日東京で没した。平穏な文体で民権思想を説いた『民権自由論』、世界政府構想を示した『無上政法論』をはじめ、『天賦人權弁』『局議院論』『東洋之婦女』『植木枝盛日記』など多数の著作や論説を残している。↓日本国憲法 (松永昌三)

④家永三郎著『植木枝盛研究』(一九六〇・岩波書店)▽同編『植木枝盛選集』(岩波文庫)

植木鉢 うえきばち 植木や草花などを植える容器となる鉢の総称で、ポットともいう。植え込む樹種や草花の種類によって観賞目的が異なるので、用いる鉢も形や材質が違ってくる。鉢の種類には次のようなものがある。植物の生育過程別にみると、種播きに用いる播種鉢、栽培途中の仕立て鉢、仕立て上がると移す化粧鉢などがある。また、栽培する植物により、盆栽鉢、蘭鉢、万年青鉢などがあり、形や線、色の優美さを求めることもある。素材別では土鉢、木鉢、プラスチック鉢(ビニル鉢)、コンクリート鉢のほか、野菜の育苗に用いる紙鉢(ペーパーポット)、泥炭やピートモスを材料としたジフィーポットなどがある。土鉢は普通、素焼鉢とよび、一部分または簡単に仕上げたものを駄温鉢という。また、外側全体にうぐすりを塗って焼き、光沢のある鉢を化粧鉢とよび、材質は陶器が多い。しかし鉢の外側に模様をつけたり、形にくふうを凝らしたプラスチック製のものも化粧鉢として扱っている。形による分類では丸鉢、小判、角鉢(四角形ないし八角形)、皿形などともよび、いずれも深淺の区別があり、普通の丸鉢でも腰高と平鉢に分けられる。一般的に植木鉢にはかならず底穴がある。産地による区別としては常滑、瀬戸、信楽、有田などの名がある。外国鉢としては中国鉢が良質で、土質のよい南京鉢、広東鉢が有名である。最近鉢物の利用が多様化し、栽培鉢以外にも、沿道や公園にフラワーボックスとして、あるいは家庭で装飾的に用いる吊り鉢、観葉植物鉢、テラリウムで楽しむガラス鉢などが用いられるようになった。

鉢の大きさは、普通の素焼鉢は直径三寸(一号)から大きなものは三九寸(一三号)までであり、パンジー、サクラソウなどの草花では三、五号、サツキ、ボケなどの小花木では五、六号が多く用いられる。

わが国の鉢の歴史は、江戸時代初期には木箱が使用され、土鉢などが用いられるようになったのは江戸時代中期にオモトや盆栽がつくられるようになってからともいわれる。(堀 保男)



植木枝盛

植木屋 うえきや 庭木の栽培、手入れと庭作の職人。一四世紀から庭園に対する需要が高まり、茶庭の露地作(露地の者)や正しい箒目をつけるための庭掃などの職人が生まれた。また、このころの庭園は植木よりも石に重点が置かれて、石立といった僧侶の職人も生まれた。一七世紀になると、石を主にした作庭は、武家や町家の住宅にもみられ、庭作、のちに庭師という職人が現れ、同時にその庭に草木

も植えるようになり、それらを供給する職人、つまり植木屋がみられるようになった。自家で植木や盆栽、草花などを栽培して、これを販売するばかりでなく、一八世紀からは緑日や植木市にも出すようになり、さらに出職によって庭木の手入れもするようになった。植木職ともい、庭師の仕事と重なってきた。道具は植木鉋（巻蔓型の二つの指輪のある庭師鉋と両手で使う長い柄の木刈鉋）と鋸である。近代では造園業といわれるように、庭師と植木屋は一括されてきたが、造園が主となったために、植木鉋で出入りの家の庭木を、秋口に刈り込みなどを植木職人は少なくなった。庭師にしても、大きな園芸店の下請けとなる者も出てきた。しかし、注文の木を探して歩く下屋（よ）とか、緑日などへ木を掘って持って行く地掘屋（緑日屋）などは存在している。庭師、植木屋は今日では造園士と総称されている。

植草甚一 うえきじんいち（一九一七—）評論家、エッセイスト。東京・日本橋生まれ。早稲田大学建築科中退。初め外国映画、とくにヒッチコックのスリラー映画などに独自の批評を展開。さらに欧米の現代文学、推理小説、現代美術、漫画、ジャズなどの現代音楽の紹介・批評へと多くの趣味を生かして広範囲に活躍。一九六〇年代以降は自らニューヨーク生活を繰り返して、つねに現代に密着した自由な雑学精神で一生を貫き、前衛的若者芸術の教祖的存在でもあった。著書に『僕は散歩と雑学が好き』（二〇〇〇）、『雨降りだからミステリーでも勉強しよう』（二〇〇七）、『映画だけしか頭になかった』（二〇一三）など多数。

ウェーク島 Wake Island 太平洋中部、マーシャル諸島の北約一〇〇〇キロ、ハワイとグアムの間にあるV字形環礁の総称。ウェークを中心に、ピール Peale、ウィルクス Wilkes という三つの小島からなるが、現在は三島は橋で結ばれている。面積六・五平方キロ。本来無住の島であったが、一九七五年ごろ、ベトナム帰休兵で一時、一万五〇〇〇人に達したこともある。通常人口は約二〇〇〇（元七五）。一九九六年イギリスのウェーク船長が発見、一八九九年アメリカ領に編入されてからの島名となったが、それまでは航海者たちは、ハルシオン Halcyon 島またはヘルシオン Hel-sion 島とよんでいた。一九三五年ハワイからアジア方面への航空路の中継地として開発、さ

らに北太平洋方面における空軍基地として諸施設が整えられた。第二次世界大戦中は日本の占領下にあり、大島島とよばれた。戦後は航空会社の投資によって三〇〇〇キロの滑走路や給油所も完備し、民間航空交通の要衝としてアメリカが行政権を保有している。

ウェークフィールド Wakefield イギリス、イングランド中部、ウェスト・ヨークシャー県にある都市。リーズの南方約一五キロに位置し、商工業が盛ん。人口六万〇五四（二〇一〇）。産業革命期までの約七〇〇年間、ヨークシャーの毛織物工業と商取引の中心地。革命期以降その地位をリーズおよびブラッドフォードに奪われた。今日は工業業種も多様化している。一四世紀に建築されたチャントリー・チャペルは橋の上の礼拝堂として有名。〈久保田武〉

ウェークフィールドの牧師 The Vicar of Wakefield イギリスの作家ゴールドスミスの中編小説。一七六六年刊。田舎牧師プリムローズの家族を中心に、生起するできごとを多少のアイロニーを含めて牧歌的な雰囲気の中で描いている。人のよい、だまされやすい一家に災いが次々と降りかかり、最後には一時に不幸がどつと押し寄せるが、無事収まって平和な暮らしに復するという物語。その楽しい牧歌的な雰囲気は、とくにゲーテの好んだところで、彼は若いときにこの作品から強い影響を受けた。

回神吉三郎訳『ウェークフィールドの牧師』（岩波文庫）

ウェーゲナー Alfred Lothar Wegener（一八八〇—一九三〇）ドイツの気象・地球物理学者。ベルリン大学、ハイデルベルク大学で天文学、気象学を学び、ドイツ海洋気象台理論気象部長兼ハンブルク大学教授（一九二六）、グラーツ大学教授（一九三〇）などを歴任した。グリーンランドの探検を三回にわたって行い、三回目の帰途に遭難死亡した。一九一一年には大気構造論や大気熱力学理論を発表し、一二年には大陸移動説を唱え、一五年『大陸と大洋の起源』を著して地質学界に波紋を投じた。彼は、大西洋兩岸の海岸線の相補性、海を隔てた大陸の古生物の共通性、赤道近くに存在する氷河遺跡などから、古生代末の原始大陸が、分裂、移動して今日の大陸の分布となったと考えた。この説は、大陸を移動させる原動力としてどんな力が考えられるか、などの不明確な点を残していたので長い

間顧みられなかったが、六〇年代以後、古地磁気学の研究やマンントル熱対流論などの地球物理学の進展に伴い、にわかに評価されるようになった。↓大陸移動説

ウェーコー Waco アメリカ合衆国、テキサス州中部の商工都市。人口二〇万一二六一（二〇一〇）。周辺の農業（綿花、穀物）地域に対する商業中心地。タイヤ、ガラス、紙製品、航空機部品、モービルホーム（自動車用牽引住宅）、家具製造業がある。一八四九年に町が建設された。南北戦争のころまでに周辺の土地が開発され、綿花プランテーションとウシの放牧場が増加するにつれて町が発展した。〈菅野峰明〉

ウェーザー川 かわ West 西ドイツ北部を北へ流れ、北海に注ぐ川。チューリンゲン・ワルト山地に源を発するウエラ川（二五キロ）と、レーン山地に発するフルダ川（二五キロ）と、ハノーファー・シュミューンデンで合流し、それより下流をウェーザー川という。ウェーザー川の部分の流長は四四〇キロで、その全長にわたって舟運が可能であり、支流アラール川、レズム川、フンテン川、ゲーステ川も舟運に利用される。ミンデンの付近でミッテルラント運河と立体的交差し、閘門のある水路によって両者の水運は結ばれている。下流部沿岸にはブレーメンがあり、そこから下流は大洋航行船が上下し、河口部にはブレーメンの外港ブレーマーハーフェン港がある。

植崎九八郎上書 うえさきくはちろうじょうしゅ寛政の改革（一七九七—一八〇六）の際、幕府小普請組の植崎九八郎政由が書いた江戸幕政についての意見書。一七八七年（天明七）七月付けの建白である。田沼政治に不満をもっていた幕臣の立場から、政治の刷新を期待し、改革政治の課題を率直に論じている。すなわち前代の老中田沼意次の政治を痛烈に批判し、年貢負担の軽減、綱紀の肅正、人材の登用、物価の引き下げ、消費の抑制、農業人口減少の防止などを主張している。当時は上書バームであり、儒者大塚孝威の「救時策」や下駄屋甚兵衛の上書などとともに、寛政の改革に寄せる期待の大きさをうかがうことができた。なおその期待が十分に実現されなかったため、のちに植崎は『賤策雑収』一卷を書き、松平定信の改革政治をも批判している。ともに『日本経済大典』第二〇巻に所収。

植崎九八郎上書 うえさきくはちろうじょうしゅ寛政の改革（一七九七—一八〇六）の際、幕府小普請組の植崎九八郎政由が書いた江戸幕政についての意見書。一七八七年（天明七）七月付けの建白である。田沼政治に不満をもっていた幕臣の立場から、政治の刷新を期待し、改革政治の課題を率直に論じている。すなわち前代の老中田沼意次の政治を痛烈に批判し、年貢負担の軽減、綱紀の肅正、人材の登用、物価の引き下げ、消費の抑制、農業人口減少の防止などを主張している。当時は上書バームであり、儒者大塚孝威の「救時策」や下駄屋甚兵衛の上書などとともに、寛政の改革に寄せる期待の大きさをうかがうことができた。なおその期待が十分に実現されなかったため、のちに植崎は『賤策雑収』一卷を書き、松平定信の改革政治をも批判している。ともに『日本経済大典』第二〇巻に所収。

上島鬼貫 うえしまおにづら 鬼貫ウエスカ Huesca スペイン北東部、アラゴン地方ウエスカ県の県都。ピレネー山脈中央の南麓に位置する農産物の集散地。人口四万二五四（一九九三）。紀元前から存在した古い町で、ローマ時代はオスカ Osga として知られ、堅固な要塞の一つであった。七八九九年にムーア人の侵攻を受け、一〇九六年ピエール一世が奪回、その後一一年八年度ではアラゴン王国の首都であった。旧市街の南と西を囲む古い城壁や、一四九七年に再建されたゴシック様式の美しい大寺院などがある。〈田辺 裕・滝沢由美子〉

ウエスカー Arnold Wester（一九三—）イギリスの劇作家。ロンドン東部の庶民街に住む東欧系ユダヤ人移民の子に生まれる。雑多な仕事を体験し、空軍除隊後は映画学校に学んだ。初稿の『調理場』が『オブザーバー』紙の戯曲公募で入賞（一九五五）し、『大麦入りのリンゼイ・アンダーソン』の紹介で初演（一九五五）された。続く『根っこ』（一九五九）、『僕はエルサレムのことを話してんだ』（一九六〇）とともに三部作とよばれ、進歩的な彼の家庭環境を舞台に、社会のありようを考えた写実的な作品である。一九五九年に初演された『調理場』（改定版一九六〇）は、大ぜいの働く職場により「まるで調理場のような人間世界」を情感豊かに、躍動的に、ときには悪夢のように現前させた。階層的な軍隊生活に取材した『いずれもチップス付き』（一九六二）、二人の若い男女の愛の『四季』（一九六五）などを発表する間、バートランド・ラッセルらとともに反核運動に参加し、また旧機関車車庫を改装したラウンド・ハウス劇場を足場に「芸術を労働者」というセンター42運動で活躍するが、『老人達』（一九六三）では彼を育てたロイヤル・コर्ट劇場に復帰した。ほかに、『友達』（一九七〇）、『ジャーナリスト』、『結婚披露宴』、『シェークスピア』、『ヘニスの商人』

間顧みられなかったが、六〇年代以後、古地磁気学の研究やマンントル熱対流論などの地球物理学の進展に伴い、にわかに評価されるようになった。↓大陸移動説

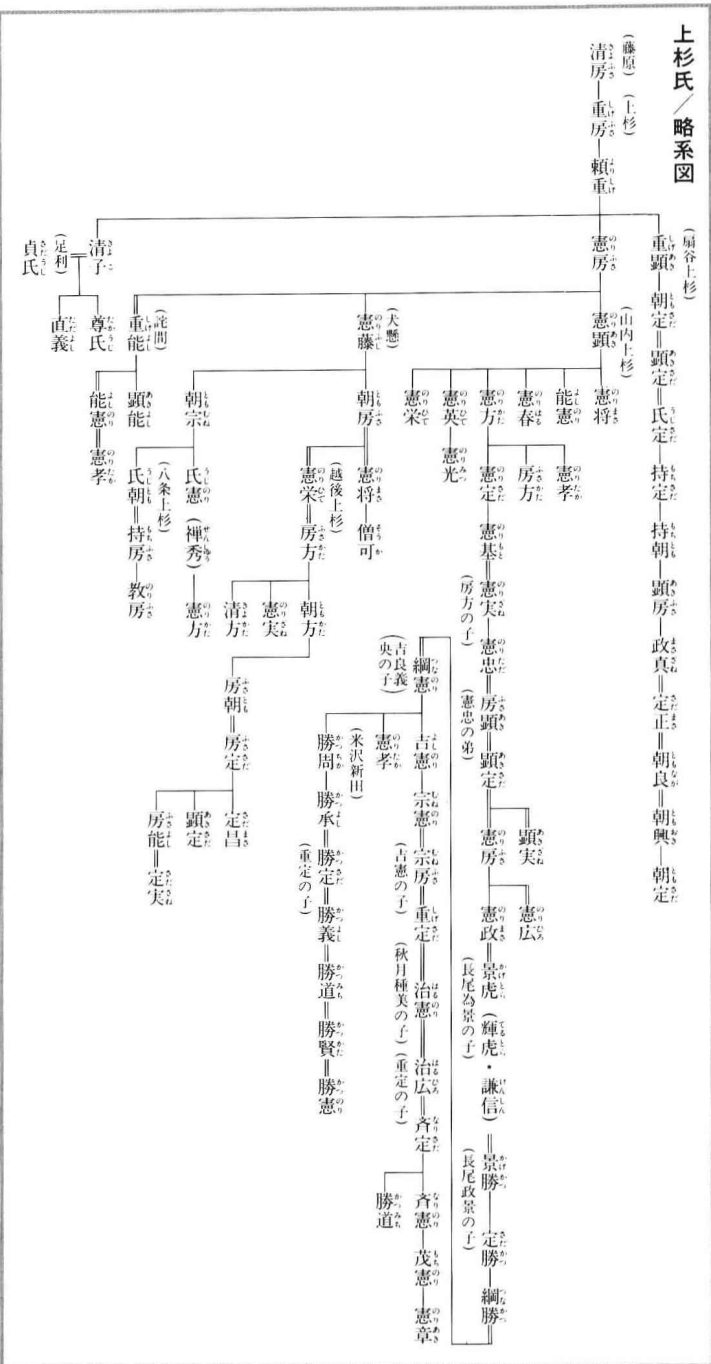
ウェーコー Waco アメリカ合衆国、テキサス州中部の商工都市。人口二〇万一二六一（二〇一〇）。周辺の農業（綿花、穀物）地域に対する商業中心地。タイヤ、ガラス、紙製品、航空機部品、モービルホーム（自動車用牽引住宅）、家具製造業がある。一八四九年に町が建設された。南北戦争のころまでに周辺の土地が開発され、綿花プランテーションとウシの放牧場が増加するにつれて町が発展した。〈菅野峰明〉

ウエスカー Arnold Wester（一九三—）イギリスの劇作家。ロンドン東部の庶民街に住む東欧系ユダヤ人移民の子に生まれる。雑多な仕事を体験し、空軍除隊後は映画学校に学んだ。初稿の『調理場』が『オブザーバー』紙の戯曲公募で入賞（一九五五）し、『大麦入りのリンゼイ・アンダーソン』の紹介で初演（一九五五）された。続く『根っこ』（一九五九）、『僕はエルサレムのことを話してんだ』（一九六〇）とともに三部作とよばれ、進歩的な彼の家庭環境を舞台に、社会のありようを考えた写実的な作品である。一九五九年に初演された『調理場』（改定版一九六〇）は、大ぜいの働く職場により「まるで調理場のような人間世界」を情感豊かに、躍動的に、ときには悪夢のように現前させた。階層的な軍隊生活に取材した『いずれもチップス付き』（一九六二）、二人の若い男女の愛の『四季』（一九六五）などを発表する間、バートランド・ラッセルらとともに反核運動に参加し、また旧機関車車庫を改装したラウンド・ハウス劇場を足場に「芸術を労働者」というセンター42運動で活躍するが、『老人達』（一九六三）では彼を育てたロイヤル・コर्ट劇場に復帰した。ほかに、『友達』（一九七〇）、『ジャーナリスト』、『結婚披露宴』、『シェークスピア』、『ヘニスの商人』



ウエスカー

上杉氏／略系図



の改作『商人』やテレビ台本などがあるが、近年、かつての支持層を失い、手法的にも模索中といえよう。中期までの作品はほとんど邦訳上演され、彼も再度来日している。〈森 康尚〉

回木村光一他訳『A・ウェスカ―全作品』全三巻（一九四六・六・晶文社）

上杉顕定 うえすぎあきさだ（一四四一—一五〇）

室町後期の武将。享徳三年越後守護上杉房定の次男として生まれる。一四六六年（文正）関東管領の山内上杉房顕が古河公方足利成氏と武蔵の五十子（埼玉県本庄市）で対陣中に病没したのち、幕府の命により房顕の遺跡を継ぎ、関東管領となつて対古河公方抗争の中心人物となる。執事長尾景信の死後、その子景春を差し置いて弟の忠景を執事に起用したため景春に背かれたが、やがて成氏と和を結び、幕府と成氏との和睦にも発展した。のち扇谷上杉定正と争い、また伊勢宗瑞（北条早雲）をも敵としたが、定正の死後しばらくして扇谷上杉氏と和した。しかし、まもなく実弟房能が長尾為景に攻め殺されたため、憲房とともに越後で為景と戦ったが、永正七年六月二〇日同国長森原で敗死した。法名海竜寺可淳皓峯。（佐脇栄智）

上杉遺民一揆

うえすぎいみんいっき 越後一揆

上杉氏

うえすぎうじ 鎌倉・江戸時代の武家。勸修寺流藤原氏。勸修寺高藤一三代の庶流重房が丹波国何鹿郡上杉荘（京都府綾部市）を与えられて以来、上杉氏を称する。重房は二五二年（建長四）宗尊親王が鎌倉幕府六代將軍として下向するのに従い鎌倉に定住、その後関東の名族足利氏と婚姻を結び、しだいに発展していった。重房の子頼重の長男重頼は扇谷家を開き、頼重の三男で家督を継いだ憲房の子の代に至り、養子重能が詮問家、次男憲勝が犬懸家を開き、長男憲頼は山内を称して四家となった。頼重の娘清子が足利貞氏に嫁して尊氏、直義を生んだことから足利氏に重用され、重頼の子朝定（扇谷）は丹後守護、尊氏の執事となり、憲頼は伊豆、上野、越後三国の守護に任じ、足利基氏が鎌倉府を開くに及びその執事となった。以後、上杉諸家は交互に関東執事（のち管領）を務めた。

憲頼の子憲榮の流は越後国守護となり越後上杉と称したが、定実に至り嗣子のないままに断絶した。詮問は早く衰え、犬懸も氏憲（禪秀）の代に關東公方足利持氏、山内憲基に敵対し、一四一七年（応永二四）滅亡した。のち関東の実権を握った山内、扇谷両上杉は、文明末年（一五世紀末）ころから相互に抗争を続け、永正年間（一五〇一—一五二一）北条氏が興るに及んで協力してこれに対抗したが、一五四六年（天文一五）山内憲政、扇谷朝定（朝興の子）が北条氏康と武蔵河越城に戦い、朝定の敗死によって扇谷家は滅亡した。憲政もまた北条氏に抗しえず越後に走り、一五六一（永禄四）関東管領職と上杉姓を越後守護代長尾景虎（謙信）に譲った。上杉氏を継いだ謙信は北陸から関東に及ぶ領土を築き、その跡を受けた甥景勝は豊臣秀吉に従つて五大老に列し、一五九八年（慶長三）会津百二十万石を与えられて春日山から若松に移った。一六〇〇年徳川家康に抗し関ヶ原の戦いの口火を切ったが敗れ、翌年出羽米沢三十万石に移され、一六六四年（寛文四）綱勝の末期養子を許されて綱憲（吉良義央の長男）が襲封するに際し十五万石に削割された。以後幕末に及ぶ。明治期に伯爵を授けられた。（小林清治）

上杉景勝 うえすぎかげかつ（一五五—一六三）安土桃山時代・江戸初期の大名。上杉謙信の養子。初名は卯松、喜平次、顕景。実父は越後坂戸城（新潟県六日町）の城主長尾政景で、母は謙信の姉。父の死後謙信に養われ、一五七五年（天正三）春日山城の中城で上杉弾正少弐景勝となる。七八年謙信の死後、もう一人の養子上杉三郎景虎（北条氏康の七男）との御館の乱に勝ち、武田勝頼の妹菊姫と結婚。八二年信濃北四郡を領し、八六年上洛して豊臣秀吉に従い左近衛権少将となる（のち参議、權中納言、中納言と昇進）。八七年越後を統一、八九年佐渡、九〇年出羽（山形県）庄内三郡を領し、北信をあわせ九十万石余の大領国に直臣直江兼続中心の独裁的な支配を確立する。九八年（慶長三）会津百二十万石（越後、北信は没収）に国替され、豊臣五大老の一員となるが、一六〇〇年（慶長五）徳川家康と敵対し、旧領越後に遺民一揆を起こしたが敗れ、翌年出羽米沢領三十万石に減封となる。元和九年三月二〇日、六九歳で米沢城に没する。法名覺上院殿空山宗心大居士、高野山清浄心院と米沢法音寺に葬られる。上杉謙信 越後一揆（藤木久志）

上杉清子 うえすぎきよこ（？—一三四）上杉頼重の娘。「うせいし」ともいう。上杉氏の所領丹波国何鹿郡（京都府綾部市）および福知山市の（ごく一部）に育ち、足利貞氏の室となり、尊氏、直義を生んだ。尊氏が苦難していた一三三六年（延元一・建武三）戦勝を祈願して、紀伊粉河寺に戸帳を寄付し、翌年領地を寄進した。尊氏が征夷大將軍になって以後は、足利大方殿、錦小路殿といわれ、浄妙寺殿雪庭と号した。『風雅集』に和歌を残す。一三四二年二月三日没。法号を等持院といったが、のちに果証院雪庭貞公と改められた。墓は京都・等持院にある。

上杉家文書 うえすぎけんじょ 旧米沢藩主上杉家に伝えられた古文書。鎌倉時代から江戸時代初期までのもの約二二〇〇点、そのほか江戸時代のもの多数がある。上杉氏はもと越後（新潟県）の豪族長尾氏で、守護上杉氏の守護代であった。謙信のとき、関東管領でもあった山内上杉憲政から家名を譲られて上杉氏を称した。このような事情を反映して、この文書群には謙信、景勝、定勝の越後国主三代の文書のほかに、山内上杉氏に伝えられた文書、長尾氏（守護代）の長尾氏および支族に伝えられた文



書が入っている。内容を見ると、長尾為景時代の越後諸豪族との抗争、統一の過程を示すもの、謙信時代の北条、武田、蘆名、伊達氏ら近隣諸国との交渉を示すもの、景勝時代の豊臣政権との交渉を示すものなど、守護大名、戦国大名研究の好史料である。また江戸時代に二度整理が行われたが、原形を損なわないで保管されたので、料紙、封式など文書の形態的研究にもきわめて有用である。『大日本古文書 家わけ第二』所収。

生まれた寅年にちなんで虎千代、ついで平三景虎といひ、のち政虎、輝虎と名を変え、また道号は初め宗心、一五七〇年(元龜一)から不識庵謙信という。

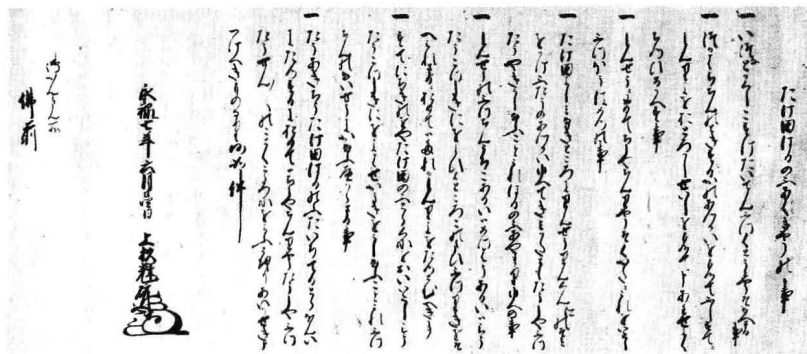
一五〇七年(永正四)父為景は守護上杉房能を殺し、上杉一族の上条定実を傀儡守護にたてて、実質的な越後国主となったことから、典型的な下剋上の人として知られる。三六年(天文五)その死後は嫡子晴景が後を継ぐが、国内は各地に分立対抗する長尾一族の勢力ごとに分裂し戦乱が続いた。弟の景虎は春日山城下の臨濟宗林泉寺(上越市)の天室光育に預けられるが、のち母方の古志長尾家を頼って栃尾城(栃尾市)に移り、中越地方のなかばを掌握して、中越魚沼地方の上田坂戸城(南魚沼郡六日町)にいる義兄の長尾政景や、上越地方を押さえる実兄晴景の勢力を圧倒する。四八年末には



上杉謙信 (上)画像
山形 上杉神社
[下]武田晴信(信玄)の悪行をあげ当秋中にこれを退治することを祈念した、春日山城の御かんきん(看経)所あての仮名書き願文。永禄7年(1564)6月24日、謙信自筆 山形 上杉神社

兄の養子となる形で春日山城に入り、五一年には政景をも陰謀で倒して、上・中越地方の統一を実現し、政景の子喜平次(上杉景勝)を養子にすると、その勢威で下越揚北衆といわれた豪族領主たちをも率いて、以後、多方面にわたる外征に転ずる。まず五二年、小田原の北条氏康に追われた関東管領上杉憲政を助けて関東に兵を出し、上洛して後奈良天皇から従五位下、彈正少弼に任ぜられたのち、越山といわれた関東出兵は、六九年(永禄一二)まで一七年间にわたって続けられ、また、甲斐(山梨県)の武田信玄に追われた小笠原長時、村上義清らを助けた北信濃出兵は、川中島(長野市)の戦いといわれ、六四年まで繰り返された。とくに六一年九月の川中島八幡原での謙信・信玄両雄激突は戦史に有名であるが、戦後処理で信玄はこの地方を知行地として家臣に分配する宛行状を出しているのに、謙信はただ戦功をねぎらう感状を出しているにすぎないという事実からみると、勝利は信玄のものであったと推定される。

一五五九年上洛し將軍足利義輝に会い、六〇年からは北陸にも進出し、一向一揆との戦いが始まる。六一年北条氏を小田原の本城まで追い詰めるが破れず、帰途に鎌倉の鶴岡八幡宮で上杉憲政から関東管領職と上杉の名跡を受け継ぐ儀式を挙行して上杉政虎と称し、足利藤氏を鎌倉公方に擁し、厩橋城(群馬県前橋市)を北関東制圧の拠点とした。六九年には北条氏康に請われて上野一國(群馬県)の割譲と氏康の子



三郎氏秀の入嗣(上杉景虎)を条件に講和し、武田信玄を共同の敵とするが、七三年(天正一)信玄の死後は、北陸から朝倉義景や一向一揆を滅ぼして国境に迫った織田信長軍との対決が大きな課題となる。天正六年三月一三日中氣(脳溢血)により春日山城中で没した。四九歳であった。軍事的行動半径の広さや神仏信仰、名分の重視などによって知られる。法名は不識院殿真光謙信、高野山清浄心院に葬る。

終生妻をめとらず、死の直後から二人の養子、春日山城に拠った景勝、府内御館に拠った景虎の間で越後を二分した抗争三年にわたる御館の乱が続く、かつての豪族連合的な謙信の支配の形は一変し、争乱に勝った景勝の下で、その実家上田長尾家の勢力と新参の北信衆を中心とした独裁が実現する。

〔藤木久志〕
④布施秀治著『上杉謙信伝』(一九七・謙信文庫)
▽井上鋭夫著『上杉謙信』(八六・人物往来社)▽『新潟県史 資料編3』(一九八・三・新潟県)

上杉定正

うえすぎきたまさ (一四四三—一四九四) 室町後期の武将。嘉吉三年扇谷上杉持朝の三男として生まれる。一四七三年(文明五)堀の政真が武蔵の五十子(埼玉県本庄市)で古河公方足利成氏と戦って敗死すると、政真の家に迎えられて扇谷上杉家を継ぎ、家宰太田道灌らの力によってその家名を高めた。しかし、のちに道灌を相模糟屋の館(神奈川県伊勢原市)で謀殺したため多くの家臣を失う。長尾景春の反乱に対しては山内上杉顕定を助けて戦ったが、のちに顕定と対立し、かつての敵古河公方や景春と結び、また伊勢宗瑞(北条早雲)とも組んで顕定と戦う。明応三年武蔵の高見原で顕定と対陣した際、落馬が原因で一〇月五日に急死した。法名護国院大通範亨。

上杉重房 うえすぎしげふさ 生没年不詳。鎌倉中期の武将。上杉氏の祖・藤原清房の子。式乾門院藏人、修理大夫、左衛門督に任ず。一二五二年(建長四)宗尊親王とともに鎌倉に下向し、將軍の近習として仕える。このとき丹波国何鹿郡上杉荘(京都府綾部市上杉)を与えられ、上杉氏と称するようになる。重房の娘は足利頼氏に嫁し、また重房の子頼重の娘(清子)は足利貞氏の妻となり、尊氏、直義を生んだ。上杉氏は足利氏と密接な姻戚関係を結び、以後足利氏の外戚として重きをなした。●肖像彫刻 《伊藤喜良》

上杉重能

うえすぎしげよし (?—一四四九) 南北朝時代の武将。母の縁で叔父上杉憲房の養子となり、詮問上杉氏をたて、足利尊氏の重臣となった。一三三三年(元弘三・正慶二)養父憲房とともに尊氏に決起を促して六波羅攻めを行い、北条氏を滅亡させた。それ以来たび重なる戦功をあげ、伊豆守(のちに守護兼帯、武蔵守護代、引付方一番頭人となり、さらに執事として尊氏の側近にあつて一時権勢を振るった。四九年(正平四・貞和五)同じ執事の高師直と対立して権力の座を追われ、越前に配流され、江守荘において、師直の命令により守護代八木光勝によって殺された。法名報恩寺秀峯道宏。《峰岸純夫》

上杉慎吉

うえすぎしんきち (一八七一—一九二〇) 憲法学者。明治一年八月一日福井県に生まれる。一九〇三年(明治三六)東京帝国大学卒業後、助教となり、〇四年から〇九年までドイツに留学、一二年に教授となる。初め、「国家八一人格タリ」「天皇八国家ノ最高機関ニシテ」と説き国家法人説、天皇機関説をとっていたが、ドイツ留学後に転向し、穂積八束を師とする明治憲法時代の有力な天皇主権説学派の一人として知られる。一二年の著「帝国憲法綱領」の序文に「予が西遊以前ノ著述論文ハ、多クハ皆誤謬ノ見解ヲ伝ヘタリ」と記し、同年、穂積の後継として東京帝国大学の憲法講座担当教授となったのは、天皇主権説学派の代表者として活躍し、美濃部達吉と激しく論争した。その主張は、国家の統治権は無限であり、国法は天皇を拘束せず、天皇の命令には臣民は絶対無限に服従しなければならないとし、議會も國家に於て不可欠の機関ではない、といった考え方に基いていた。

上杉重房

うえすぎしげふさ 生没年不詳。鎌倉中期の武将。上杉氏の祖・藤原清房の子。式乾門院藏人、修理大夫、左衛門督に任ず。一二五二年(建長四)宗尊親王とともに鎌倉に下向し、將軍の近習として仕える。このとき丹波国何鹿郡上杉荘(京都府綾部市上杉)を与えられ、上杉氏と称するようになる。重房の娘は足利頼氏に嫁し、また重房の子頼重の娘(清子)は足利貞氏の妻となり、尊氏、直義を生んだ。上杉氏は足利氏と密接な姻戚関係を結び、以後足利氏の外戚として重きをなした。●肖像彫刻 《伊藤喜良》

上杉重能

うえすぎしげよし (?—一四四九) 南北朝時代の武将。母の縁で叔父上杉憲房の養子となり、詮問上杉氏をたて、足利尊氏の重臣となった。一三三三年(元弘三・正慶二)養父憲房とともに尊氏に決起を促して六波羅攻めを行い、北条氏を滅亡させた。それ以来たび重なる戦功をあげ、伊豆守(のちに守護兼帯、武蔵守護代、引付方一番頭人となり、さらに執事として尊氏の側近にあつて一時権勢を振るった。四九年(正平四・貞和五)同じ執事の高師直と対立して権力の座を追われ、越前に配流され、江守荘において、師直の命令により守護代八木光勝によって殺された。法名報恩寺秀峯道宏。《峰岸純夫》

上杉慎吉

うえすぎしんきち (一八七一—一九二〇) 憲法学者。明治一年八月一日福井県に生まれる。一九〇三年(明治三六)東京帝国大学卒業後、助教となり、〇四年から〇九年までドイツに留学、一二年に教授となる。初め、「国家八一人格タリ」「天皇八国家ノ最高機関ニシテ」と説き国家法人説、天皇機関説をとっていたが、ドイツ留学後に転向し、穂積八束を師とする明治憲法時代の有力な天皇主権説学派の一人として知られる。一二年の著「帝国憲法綱領」の序文に「予が西遊以前ノ著述論文ハ、多クハ皆誤謬ノ見解ヲ伝ヘタリ」と記し、同年、穂積の後継として東京帝国大学の憲法講座担当教授となったのは、天皇主権説学派の代表者として活躍し、美濃部達吉と激しく論争した。その主張は、国家の統治権は無限であり、国法は天皇を拘束せず、天皇の命令には臣民は絶対無限に服従しなければならないとし、議會も國家に於て不可欠の機関ではない、といった考え方に基いていた。

上杉重房

うえすぎしげふさ 生没年不詳。鎌倉中期の武将。上杉氏の祖・藤原清房の子。式乾門院藏人、修理大夫、左衛門督に任ず。一二五二年(建長四)宗尊親王とともに鎌倉に下向し、將軍の近習として仕える。このとき丹波国何鹿郡上杉荘(京都府綾部市上杉)を与えられ、上杉氏と称するようになる。重房の娘は足利頼氏に嫁し、また重房の子頼重の娘(清子)は足利貞氏の妻となり、尊氏、直義を生んだ。上杉氏は足利氏と密接な姻戚関係を結び、以後足利氏の外戚として重きをなした。●肖像彫刻 《伊藤喜良》

上杉重能

うえすぎしげよし (?—一四四九) 南北朝時代の武将。母の縁で叔父上杉憲房の養子となり、詮問上杉氏をたて、足利尊氏の重臣となった。一三三三年(元弘三・正慶二)養父憲房とともに尊氏に決起を促して六波羅攻めを行い、北条氏を滅亡させた。それ以来たび重なる戦功をあげ、伊豆守(のちに守護兼帯、武蔵守護代、引付方一番頭人となり、さらに執事として尊氏の側近にあつて一時権勢を振るった。四九年(正平四・貞和五)同じ執事の高師直と対立して権力の座を追われ、越前に配流され、江守荘において、師直の命令により守護代八木光勝によって殺された。法名報恩寺秀峯道宏。《峰岸純夫》

上杉慎吉

うえすぎしんきち (一八七一—一九二〇) 憲法学者。明治一年八月一日福井県に生まれる。一九〇三年(明治三六)東京帝国大学卒業後、助教となり、〇四年から〇九年までドイツに留学、一二年に教授となる。初め、「国家八一人格タリ」「天皇八国家ノ最高機関ニシテ」と説き国家法人説、天皇機関説をとっていたが、ドイツ留学後に転向し、穂積八束を師とする明治憲法時代の有力な天皇主権説学派の一人として知られる。一二年の著「帝国憲法綱領」の序文に「予が西遊以前ノ著述論文ハ、多クハ皆誤謬ノ見解ヲ伝ヘタリ」と記し、同年、穂積の後継として東京帝国大学の憲法講座担当教授となったのは、天皇主権説学派の代表者として活躍し、美濃部達吉と激しく論争した。その主張は、国家の統治権は無限であり、国法は天皇を拘束せず、天皇の命令には臣民は絶対無限に服従しなければならないとし、議會も國家に於て不可欠の機関ではない、といった考え方に基いていた。

上杉重房

うえすぎしげふさ 生没年不詳。鎌倉中期の武将。上杉氏の祖・藤原清房の子。式乾門院藏人、修理大夫、左衛門督に任ず。一二五二年(建長四)宗尊親王とともに鎌倉に下向し、將軍の近習として仕える。このとき丹波国何鹿郡上杉荘(京都府綾部市上杉)を与えられ、上杉氏と称するようになる。重房の娘は足利頼氏に嫁し、また重房の子頼重の娘(清子)は足利貞氏の妻となり、尊氏、直義を生んだ。上杉氏は足利氏と密接な姻戚関係を結び、以後足利氏の外戚として重きをなした。●肖像彫刻 《伊藤喜良》

上杉重能

うえすぎしげよし (?—一四四九) 南北朝時代の武将。母の縁で叔父上杉憲房の養子となり、詮問上杉氏をたて、足利尊氏の重臣となった。一三三三年(元弘三・正慶二)養父憲房とともに尊氏に決起を促して六波羅攻めを行い、北条氏を滅亡させた。それ以来たび重なる戦功をあげ、伊豆守(のちに守護兼帯、武蔵守護代、引付方一番頭人となり、さらに執事として尊氏の側近にあつて一時権勢を振るった。四九年(正平四・貞和五)同じ執事の高師直と対立して権力の座を追われ、越前に配流され、江守荘において、師直の命令により守護代八木光勝によって殺された。法名報恩寺秀峯道宏。《峰岸純夫》

シテ」と説き国家法人説、天皇機関説をとっていたが、ドイツ留学後に転向し、穂積八束を師とする明治憲法時代の有力な天皇主権説学派の一人として知られる。一二年の著「帝国憲法綱領」の序文に「予が西遊以前ノ著述論文ハ、多クハ皆誤謬ノ見解ヲ伝ヘタリ」と記し、同年、穂積の後継として東京帝国大学の憲法講座担当教授となったのは、天皇主権説学派の代表者として活躍し、美濃部達吉と激しく論争した。その主張は、国家の統治権は無限であり、国法は天皇を拘束せず、天皇の命令には臣民は絶対無限に服従しなければならないとし、議會も國家に於て不可欠の機関ではない、といった考え方に基いていた。

第一次世界大戦後には、東京帝国大学内に七生社をおこし、学外では経倫学盟、建国会などを主宰するなど、その活動は実践運動にまで及んだ。主著には『新稿帝国憲法』(一九三三)、『新稿憲法述義』(一九三六)などがある。昭和四年四月七日死去。《池田政章》

四 星島二郎編『上杉博士対美濃部博士最近憲法論』(一九三三・実業之日本社)▽家永三郎著『日本近代憲法思想史研究』(一九七〇・岩波書店)

上杉神社 うえすぎじんじや 山形県米沢市丸ノ内の松岬公園内に鎮座。祭神は上杉謙信。慶長年間(一五九六—一六〇五)上杉景勝が米沢移封に際し、謙信の遺骸を城内の廟堂、不識庵に仏式で祀った。一八七一年(明治四〇)神祭に改め上杉鷹山(治憲)を合祀し、翌年名称を上杉神社とし、県社に列した。七六年新たに社殿を造営して遷座。一九〇二年(明治三五)別格官幣社に列し、同時に摂社松岬神社を創建し鷹山の霊を配祀した。例祭「上杉まつり」は四月二九日より五月三日まで行われる。社宝は稽古殿に収蔵され、謙信の遺品を中心に数百点に及び、多数の重要文化財を含む。《高橋美由紀》

上杉禪秀の乱 うえすぎぜんしゅうのらん 四二六年(応永二三)から翌年にかけて上杉氏(法名禪秀)が鎌倉公方足利持氏に対して起した乱。禪秀(犬懸家)は上杉憲定の後を受け、関東管領に就任したが、家人の越前氏が持氏に処分され所領を没収されたという問題で持氏と対立して辞職、持氏が、後任に勢力を競っている上杉憲基(山内家)を任命したことにより、禪秀の反山内家・反持氏が公然化した。そして、將軍義持の弟義嗣、持氏の叔父満隆、さ

らに禪秀と姻戚関係にある岩松満純、那須資之、千葉兼胤、常陸大掾満幹、武田信満や、山入与義、小田持家らの諸豪族、二階堂、木戸らの史僚層、武州南一揆などの中小氏族など、現体制に不満を有する広範な武士たちを糾合し、一六一年一〇月挙兵し持氏を襲撃した。持氏は駿河の今川氏のもとに逃れたため、禪秀らは鎌倉を占領した。しかし反乱軍の反抗を恐れた幕府が持氏への救援を決定し、越後の上杉房方、信濃の小笠原政康、駿河の今川範政らに出兵を命じたことにより形勢は逆転し、また武州南一揆などの離反もあり、結局一七一年正月、禪秀らは鎌倉の雪ノ下別当房で自殺し、反乱は終息した。

この乱の結果、東国の社会は混乱し、鎌倉府の支配体制も動揺し、それらの立て直しを図るため持氏による強圧的な行動が行われるが、かつて混乱は深まり、さらには幕府との関係も以前に増してうまくゆかなくなるなど、この乱は東国に新たな問題を生み出す原因をつくることとなった。《小栗博》

回 渡辺世祐著『関東中心足利時代之研究』(一九三三・新人物往来社)▽神奈川県県民部史編集室編『神奈川県史 通史編 一』(一九三三・財団法人神奈川県県民部史会)

上杉輝虎 うえすぎのりたけ 上杉謙信の長男。北朝時代の武将。上杉憲房の子で、山内上杉氏をたてる。足利尊氏・直義と従兄弟にあたる関係で、足利氏のなかで重きをなし、南北朝内乱で活躍した。一三三六年(延元一・建武三)父憲房の戦死後家督を継ぎ、民部大輔、上野守護となり、ここを基盤に越後、下野方面に出動した。越後守護を兼帯し、家臣の長尾氏を上野、越後の守護代に据えた。五〇年(正平五・観応一)に足利尊氏・直義兄弟の争い(観応の擾乱)が起こると、直義党として武蔵野合戦などに奮闘したが敗北。その後、信濃、越後、上野などの国境地帯で一〇年間、反尊氏方としてゲリラ的活動をしていた。尊氏の死後、鎌倉公方足利基氏は、六一年(正平一六・康安二)に関東管領・畠山国清を追放し、六三年(正平一八・貞治二)憲領を迎えてその地位に据え、上野、越後の守護に復させた。以来、基氏、氏満に仕えて鎌倉府の基礎をつくった。伊豆奈古屋(静岡県富士山町)に国清寺を建て、ここに葬られた。法名国清寺桂山道昌。《峰岸純夫》

上杉憲実 うえすぎのりさね (一四〇一—一四六六) 室町中期の武将。関東管領。越後守護上杉房方の子。山内上杉憲基の養子となる。一四一九年(応永二六)伊豆、上野守護に補任され、関東管領に就任した。四代將軍足利義持の死(一四七三)後、次期將軍を期待していた関東公方足利持氏が、將軍の後継者となった義教を攻めんとしたとき、憲実はこれを諫止した。以後幕府に反抗し続ける持氏をつねに諫め、やがて持氏と憲実の間は不穏なものとなった。三八年(永享一〇)持氏による憲実討伐の風聞に、憲実は領国上野へ出奔、幕府の命を受けて翌年持氏を自殺させた。やがて出家し(永享一二年三月以前)伊豆国清寺に籠居したが、幕命により俗界に復帰し、一時関東の政務をみた。その後鎌倉を去り諸国行脚ののち、長門(山口県)大寧寺で文正元年閏二月に没した。下野(栃木県)の足利学校を再興している。《田辺久子》

上杉憲房 うえすぎのりふさ (?—一三三六) 南北朝時代の武将。足利尊氏の母清子の兄として尊氏に重んぜられ、一三三三年(元弘三・正慶二)の尊氏の六波羅攻めに功績があり、伊豆国奈古屋郷(静岡県田方郡富士山町奈古谷)の地頭となり、建武政権のもとでは雑訴決断所の奉行人となった。南北朝内乱が始まると、新田義貞の本拠地である上野守護となり、南朝勢力を一掃した。三六年(延元一・建武三)一月尊氏に従って入京し、四条河原の合戦において北畠親家、新田義貞らと戦い戦死した。法名瑞光院雪谿道欽。《峰岸純夫》

上杉憲政 うえすぎのりまさ (?—一五七〇) 戦国時代の武将。山内上杉氏最後の関東管領。憲房の子。一五三一年(享祿四)家を継ぎ関東管領となる。小田原の北条氏康と対立し、武蔵河越城に北条綱成を包囲したが、四六年(天文一五)氏康軍に敗れ上野平井城に逃れた。勢力の衰えた憲政は五七年(弘治三)長尾景虎(後の上杉謙信)を頼って越後に亡命した。四年後、上杉の名跡と関東管領職を景虎に譲った。七八年(天正六)謙信が死ぬとその養子の景虎(謙信の初名を継ぐ)も、景勝の家督争いに巻き込まれ、翌年三月一七日景勝の兵に殺された。享年は七三歳とも七六歳とも伝える。《田辺久子》

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉憲実 うえすぎのりさね (一四〇一—一四六六) 室町中期の武将。関東管領。越後守護上杉房方の子。山内上杉憲基の養子となる。一四一九年(応永二六)伊豆、上野守護に補任され、関東管領に就任した。四代將軍足利義持の死(一四七三)後、次期將軍を期待していた関東公方足利持氏が、將軍の後継者となった義教を攻めんとしたとき、憲実はこれを諫止した。以後幕府に反抗し続ける持氏をつねに諫め、やがて持氏と憲実の間は不穏なものとなった。三八年(永享一〇)持氏による憲実討伐の風聞に、憲実は領国上野へ出奔、幕府の命を受けて翌年持氏を自殺させた。やがて出家し(永享一二年三月以前)伊豆国清寺に籠居したが、幕命により俗界に復帰し、一時関東の政務をみた。その後鎌倉を去り諸国行脚ののち、長門(山口県)大寧寺で文正元年閏二月に没した。下野(栃木県)の足利学校を再興している。《田辺久子》

上杉憲房 うえすぎのりふさ (?—一三三六) 南北朝時代の武将。足利尊氏の母清子の兄として尊氏に重んぜられ、一三三三年(元弘三・正慶二)の尊氏の六波羅攻めに功績があり、伊豆国奈古屋郷(静岡県田方郡富士山町奈古谷)の地頭となり、建武政権のもとでは雑訴決断所の奉行人となった。南北朝内乱が始まると、新田義貞の本拠地である上野守護となり、南朝勢力を一掃した。三六年(延元一・建武三)一月尊氏に従って入京し、四条河原の合戦において北畠親家、新田義貞らと戦い戦死した。法名瑞光院雪谿道欽。《峰岸純夫》

上杉憲政 うえすぎのりまさ (?—一五七〇) 戦国時代の武将。山内上杉氏最後の関東管領。憲房の子。一五三一年(享祿四)家を継ぎ関東管領となる。小田原の北条氏康と対立し、武蔵河越城に北条綱成を包囲したが、四六年(天文一五)氏康軍に敗れ上野平井城に逃れた。勢力の衰えた憲政は五七年(弘治三)長尾景虎(後の上杉謙信)を頼って越後に亡命した。四年後、上杉の名跡と関東管領職を景虎に譲った。七八年(天正六)謙信が死ぬとその養子の景虎(謙信の初名を継ぐ)も、景勝の家督争いに巻き込まれ、翌年三月一七日景勝の兵に殺された。享年は七三歳とも七六歳とも伝える。《田辺久子》

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出

上杉治憲 うえすぎのり (一五一八—一五八三) 江戸中期の米沢藩主。日向国(宮崎県)高鍋藩主秋月種美の二男として江戸に生まれる。幼名松三郎、のち直松。一七六〇年(宝暦一〇)出



上杉治憲 画像 八尾板惟一筆
山形 上杉神社

羽国（山形県）米沢藩主上杉重定の養嗣子となり、六七年（明和四）四月、満一五歳で第一〇代の藩主となる。元服して治憲を名のり、藩主隠退後の一八〇二年（享和二）に鷹山と号した。治憲の襲封は、藩政改革の開始を意味した。当時米沢藩は極度の財政窮乏のため、領土を幕府に返上しようとする有力な議論も出ていたが、薬科松伯の舊我社に集まった有為の人物を中心に、新藩主治憲をたてて藩政改革を断行した。改革は天明年間（一八一一～一八二〇）の中断期を挟んで、明和・安永の改革、寛政の改革にわたり長期に及んだ。第一次の改革は治憲が藩主として、執成竹侯当綱のもとに進められ、大倭約令の実施、農村支配機構の改革、漆・桑・楮各一〇〇万本の植えて、織物技術の導入、藩校興譲館の創設など積極的な施策が実施された。倭約の実践、藩校創設の指導にあたっては、藩主自ら親しく儒者細井平洲や渋井太室の教を請うていた。改革が天明飢饉その他の理由で中断したあと、八五年（天明五）治憲は満三三歳で藩主を隠退し、その後は新藩主治広（重定の実子）の後見役となるが、ときに新藩主主と与えた『伝国之辞』が有名。寛政の改革は中老位戸善政（太華）を中心に推進されたが、隠殿における治憲は女中たちに養蚕、絹織りをさせるなど、精神的、実践的にも一貫して改革を指導している。文政五年三月一二日米沢で没す。↑上杉神社

（横山昭男）

横山昭男著『上杉鷹山』（二六六・吉川弘文館）

上杉鷹山 うえすぎようざん ↓上杉治憲

上杉能憲 うえすぎよしのり （三三三～三七）南

（三五）、養父の仇を報じた。そのため尊氏によって流罪に処せられたが、やがて許され、六八年（正平二三・応安一）父憲親にかわって、上杉朝房とともに関東管領となり、上野、武蔵、伊豆守護にも任ぜられた。鎌倉に報恩寺を建立し、没後そこに葬られた。法名報恩寺敬堂道護。《峰岸純夫》

ウエスリット Glenway Wescott (1901～) アメリカの詩人、小説家。ウィスコンシン州生まれ。出身地の農村の生活に材をとった作家として知られ、代表作は小説『祖母たち』（二七）。当時、過酷な労働と因習的な閉鎖性の場として中西部の農村を指導する「村への反逆」が文壇の主流であったが、ウエスリットは、農村の現実を仮借なく描きながらも、底に息づくパイオニアたちの希望と叙情をノスタルジーを込めて描いた。《渋谷雄三郎》

ウエスタ Vesta ローマ神話の電の女神。ギリシアのヘステアと同一視された。ウエスタは円形の祠堂に祀られているが、その神像はなく、永遠に消えぬ火が崇拜の対象となった。家庭で崇拜されるとともに、国家の電の神とされ、その神殿ではウエスタリスとよばれる処女の祭司たちによって絶えず火が保たれていた。この祭司団は、ロムルス之母ウエスタの巫女であったレア・シルウィアをたて、ヌマ王が設立したものである。ウエスタは、ローマの神々のうちでもっとも古い系列に属する。また、ギリシアのヘステアとは語源、祭祀上から同源であり、ギリシア語、ラテン語の分離以前から崇拜の対象とされていた。《小川正広》

ウエスターマーク Edward Alexander Westermarck (1862～1939) フィンランド生まれの社会学者、人類学者。フィンランド大学で最初、哲学を学んだが、のちに社会学、人類学に学問的関心を移した。ヘルシンキ大学の社会学教授を経て、イギリスに渡り、ロンドン大学社会学教授の職につき、晩年までの研究生活を送った。彼がイギリスに移る決意をしたのはダーウィンの著書の影響によるものと考えられている。代表的著書としては『人類婚姻史』The History of Human Marriage (一九〇二)がある。本書で彼は豊富な資料を縦横に駆使し、帰納的方法をもちいて、人類社会の家族史・婚姻史を再構成しており、L・H・モルガンらの進化主義者が主張する原始乱婚説や母系氏族先行説に反対する立場を明らかにし

た。そのほかの著作としては『道德理念の起源と発展』The Origin and Development of the Moral Ideas (一九〇六)が有名である。↑人類婚姻史 《野口武徳》

ウエスターマン William Linn Westermann (1831～1905) アメリカの古代史家、

とくに古典古代奴隸制研究の大家。一九二九年のバビルス史料を駆使した最初の奴隸制研究書『ブトレマイオス朝エジプトにおける奴隸制 Upon Slavery in Ptolemaic Egypt』以来、奴隸制研究に深くかわり、三五年ドイツの『古代学事典』に執筆した項目「奴隸制」Schlaveriの解説は、古典古代奴隸制諸制度の総合叙述となっており、現在までの唯一最大の実証的基本文献となっている。これは五五年に遺稿『古代ギリシア・ローマの奴隸制度』The Slave System of Greek and Roman Antiquity として増補、公刊されている。彼の奴隸制研究の基本的立場は、奴隸制の役割をできるだけ低くしようとすることにある、その点で批判の余地を残している。《古川堅治》

W・L・ウエスターマン著、安藤弘訳『古代ギリシアにおける奴隸制と自由の諸要素』金澤良樹訳『アテナイオスとアテネの奴隸』《西洋古代の奴隸制——学説と論争》所収・第二版・元吉・東京大学出版会）

ウエスタン・エレクトリック Western Electric Company, Inc. アメリカの工業会社。一九八二年の売上高は二五億ドルを上回り、従業員五九〇〇〇〇人に達する全米二二位の巨大工業会社でありながら、ATT（アメリカ電話電信会社）の一〇〇%子会社であり、製品の九〇%以上を同社に納入していた、いわゆる特異な会社であった。一八六九年にクリーブランドでグレイ・アンド・パートナー社として誕生したときには、ATTとはなんらの関係もなく、電気掃除機、ミシン、ラジオなどを製造する電機会社であったが、八一年にベル・システム（ATTとその子会社網にその過半数株式を握られてから、会社の性格を一変するに至った。以来、ウエスタン・エレクトリックは、ベル・システムで用いられるコミュニケーション機器の製造に全力を傾注してきた。一九八四年以降ATTの分割後、ウエスタン・エレクトリックはベル・ラボラトリーズ、ATTインテリナショナル、ABIとともに、ATTテクノロジーズに吸収合併されるに至った。ATTテクノ

ノロジーズは、ATTコミュニケーションズと並んで新ATTの二大部門の一つで、非規制分野の通信・情報機器の開発、製造、販売にあたっている。《佐藤定幸》

ウエスタン・オーストラリア Western Australia オーストラリア西部の州。面積二五二万五〇〇〇平方キロメートル、人口一七三万六二四

（六九）。州都はパース。州の大部分が、先カンブリア層を基盤とする西部傾斜地帯の主要部にあたる。その大半が平坦な砂漠や乾燥した台地状の平原であり、ある程度の高度と起伏をもつ山地や高原は、同州最高峰のミハリ山 Mt. Meharry (三三三三)を含む北西部のピルバラ地方、および北部のキンバリス地方のみである。州の大半が人口希薄な乾燥地域で、年降水量三〇〇ミリ未満の土地が約四分の三を占め、五〇〇ミリ以上の土地は二%にすぎない。人口密度が一平方キロメートル以上の地域は南西部（州面積の約五%）に限られ、ここに耕地（同二%）および森林（同二%）、さらに人口の九割近くが集中し、州都の都市圏だけで人口の七割余りを占める。

同州経済は、他州に比べてもっとも鉱業に特化しており、鉱業の雇用と生産額はともに全国の約四分の一を占める。鉱産物の代表は、一九六〇年代以降に開発されたピルバラ地方を主産地とする鉄鉱石で、同州鉄産額の約六割、全国鉄産石生産額の九割以上を占める。このほか、カンバルダなどで六〇年代以降開発されているニッケル（全国の一〇%）、ピルバラ地方などの塩（全国の約五分の四、南西部のボーキサイト（同約二分の一）およびミネラル・サン

ド、さらに金、天然ガスなどがある。農牧業では、小麦および羊毛がともに全国の約四分の一を生産し、全国第二位である。また、エビなどの水産物は全国第一位で全国の三分の一余りを占める。主要輸出品は鉄鉱石、小麦、羊毛などで、輸出入とも日本が最大の貿易相手国である。

一八二六年のオルバニーへの先駆的入植のあと、二九年パースへの入植をもって自由植民地として発足。流刑労働力導入期（一八三〇～一八四〇）を経て、九〇年に自治植民地となる。九〇年代に金鉱ラッシュがあった。一九〇一年、他州とともに連邦を結成した。《谷内達》

ウエスタン音楽 — おんがく ↓カントリ

↑アンド・ウエスタン



G. ウェスティングハウス

ウエスタン・ユニオン Western Union Corp. アメリカでただ一つの一般電信業務を行うウエスタン・ユニオン・テレグラフ Western Union Telegraph (WUT) 会社の持株会社で、人工衛星および一万マイル（一万六〇〇〇*）に及ぶマイクロウェーブ網を通じてデータと音声を送達する全般的コミュニケーション網を有する。また同社はそのテレックス・システムに一四万の加入者をもっているが、これは同国最大である。元来は電報会社として発足したが、現在、電報収入は同社収入総額の八%を占めるにすぎず、その面目をまったく一変している。一九七〇年代初めに、郵便公社と提携してウエスタン・ユニオン・テレグラフが送信した通信を翌日には配達するというメイルグラムを導入したが、これが大成功を収め、現在同社の大きな収入源となっている。七四年における最初の通信用人工衛星二個に続いて、続々と打ち上げられた通信衛星による通信システムは、同社業種の急成長をもたらすものと期待されている。

A T TとI B Mに対する反トラスト訴訟も同社をめぐる環境の好転をもたらしている。航空機メーカーのカーチス・ライトがウエスタン・ユニオンに対する持株比率を六・五%に引き上げたうえ、支配権の奪取にまで進むのではないかとみられるのも、同社の将来の展望が開けてきたことによるといわれる。〈佐藤定幸〉

ウエスティングハウス George Westinghouse (ハルバーン)

企業家。ニューヨーク州セントラルブリッジに生まれる。南北戦争に従軍ののち、父の営む農機具工場を手伝い、かたわら新しい技術の開発に没頭した。一八六七年に鉄道用エアーブレーキを開発、これを企業化することによって鉄道輸送の効率と安全性を高めるのに大きく貢献した。さらに八三年ごろ、その原理を天然ガスの採掘に應用、高圧の気体を低圧化する装置を考

案し、天然ガス利用の道を開いた。ついでこの原理を電氣に應用、高圧送電による交流システムを完成し、八六年ウエスティングハウス社を創設した。彼の手になる発明は数多く、生涯に得た特許は四〇〇件にも達する。〈小林契義治〉

ウエスティングハウス Westinghouse Electric Corporation

ゼネラル・エレクトリック (GE) に次ぐアメリカ第二の総合電機メーカー。一九八二年の売上高は九七億*を上回り、従業員も一四万五五〇〇人に達する全米三一位の巨大工業会社である。一八八六年に発明家のG・ウエスティングハウスによってペンシルベニア州でウエスティングハウス・エレクトリック・カンパニーとして設立されたが、八九年チャーターアイアーズ・インブルーメント会社と同社を買収したうえす社名をウエスティングハウス・エレクトリック・マニファクチュアリング・カンパニーに改めた。一九四五年五月、現社名に再度改められた。八一年の売上高構成は、産業用機器三七・一%、発電機システム三四・二%、公共用機器二七・〇%、放送四・六%、その他一・三%となっている。八一年八月に、アメリカ最大のケーブルTV会社テレブロンプター・コーポレーションを六億四六〇〇万*で買収するなど、放送部門への進出に意欲を示している。一〇〇%子会社のウエスティングハウス放送会社は、ボルティモア、フィラデルフィア、サンフランシスコなどに六つのテレビ放送会社と、ボストン、シカゴなどに一二のラジオ放送会社をもつ。

同社最大の顧客は連邦政府で、国防用その他の目的による政府買付けは、直接間接で一九八二年の同社公共用機器売上高の約半分に達するといわれる。その活動は世界各国に及び、九三%所有のウエスティングハウス・カナダ・リミテッドはじめ多数の在外子会社を擁している。輸出を含めて国外活動の売上げ比率は二七%。日本にも三四%出資の三菱原子力燃料はじめ子会社、合弁会社を所有しており、一九二〇年代初期から三菱系資本との結び付きは密接である。〈佐藤定幸〉

ウエスト Benjamin West (ハルバーン)

アメリカの画家。コプリートともに植民地時代から連邦時代のアメリカが生んだ初めての国際画家。フィラデルフィアに生まれ、一七五九年渡欧。イタリアを経て六三年からロンドンに移って歴史画の分野で高く評価され、ジョージ三

世の宮廷画家となる。九二年、レノルズの死去に伴いロイヤル・アカデミーの会長に就任。古典主義様式からロマン主義様式にわたる幅広い作風を示し、ロマン主義絵画の先駆者となる。後進のめんどろをよくみたため、当時ロンドンで絵を学んでいたアメリカ人画家ピール、ダンラップ、プラット、トランブル、スチュアートなどが入れ替わり彼のもとに集まり、その指導と援助を受けた。その意味で、一九世紀アメリカ絵画の展開に大きな貢献をなした。〈桑原住雄〉

ウエスト Charles Dickens

イギリスの機械工学者。アイルランドに生まれ、ダブリン大学で機械学を学び、バルケンヘッド造船所の技師長に在職中、一八八二年（明治一五）日本に招かれて工部大学校機械工學主任教授となる。以後、一九〇八年まで東京帝国大学工科大学教授として、機械工學、とくに船用機関を二五年間教育した。門下の井口在屋と材料試験用のねじり試験機を考案し、加茂正雄と東京高等商船学校練習船大成丸の機関部を設計した。東京・青山の外人墓地に墓碑、東京大学工学部一号館の前庭に銅像がある。井口在屋が『機械学会誌』(一九〇)に追悼文を寄せている。〈山崎俊雄〉

ウエスト Rebecca West (ハルバーン)

イギリスの女流小説家、批評家。本名 Cicely Fairfield Andrews。アイルランド生まれ。若くして文学と政治についての鋭い発言で注目され、ジャーナリストとしての力量はジョージ・オーウェルに比較される。小説ではエドワード朝時代のある一家の運命を描いた『泉はあふれる』(一九三三)が代表作。多くの批評を書いたが、バルカンの歴史と政治を扱った『黒い小羊と灰色の鷹』(一九三三)が有名。〈小野寺健〉



B. ウェスト 『ウォルフ将軍の死』 1770年 油彩 151.1X213.4cm オタワ カナダ国立美術館

ウエスト Nathaniel West (ハルバーン)

アメリカの小説家。ユダヤ系で本名ネーサン・ワインスタイン。一〇月一七日ニューヨーク市に生まれる。ブラウン大学卒業後ホテルの支配人や雑誌編集などをしながら、『バルン・スネルの夢の生活』(一九三三)、『ミス・ロンリーハーツ』(一九三三)、『クール・ミリオン』(一九三三)を発表したが世に受け入れられず、生活は苦しかった。一九三五年『ミス・ロンリーハーツ』映画化のためハリウッドに赴き、以後その地で映画シナリオも書き始めた。『いなこの日』(一九三六)は、金のため映画美術の仕事をしたがらも絵をかく夢を捨てぬ青年トッドを主人公に、女優志願の女に振り回されて精神異常になる、まじめ男ホームマーの悲哀や、映画で得た暴力的な刺激を現実求めて特別試写会に殺到する群衆の興奮などを描き、映画文明を風刺している。だがウエストの特色は、社会批判を根底に置きながらも単なる外面的な現実描写でなく、シュルレアリスム風な手法で人間の苦悩を内面からえぐ

ろうとする点にある。四〇年二月二日、新婚八か月の妻アイリーンともども自動車事故で短い生涯を終わった。全作品はわずか四編、それも生前はほとんど無視されていたが、五七年に二巻本の全集が出版されて、再評価されるようになった。『ミス・ロンリーハーツ』(大浦晩生) 四佐藤健一訳『クルール・ミリオン』(角川文庫) 〇板倉章訳『いなごの日』(角川文庫)



N. ウェスト

ウェスト・エンド West End イギリスの首都ロンドンの中心部、シティの西側一帯、ハイド・パークに至る地区の俗称。テムズ川の北岸にあたり、ロンドン市内でもっともにぎやかな繁華街が集まっている。なかでも東西に走るショッピング街であるオックスフォード街、そのすぐ南側に位置して国際色豊かな歓楽街ソーホー、高級商店街で有名なボンド街とリージェント街、それらの繁華街の中心点にあたるピカデリー・サーカス、繁華街の南端に位置するトラファルガー・スクエアなどが有名。ナショナル・ギャラリー、ナショナル・ポर्टレート・ギャラリー、大英博物館、人類博物館、ロンドン大学本部、ロイヤル・オペラハウスなどの文化・教育施設も多い。西端のメイフェア地区は最高級住宅地であったが、今日では一流ホテル、各国大使館、事務所の進出が目立つ。なお南隣に議会、官庁街、バックingham宮殿などが集まる政治の中心、旧ウェストミンスター地区がある。↓ウェストミンスター 《久保田武》

ンビア大学がある。ジェローム・ロビンス作のミュージカル『ウェスト・サイド物語』の舞台。↓イースト・サイド ↓マンハッタン ↓ニューヨーク市

ウェスト・サイド物語 —ものがたり West Side Story ミュージカル。原案・演出・振付けジェローム・ロビンス、台本アーサー・ロレンツ、作詞ステイブン・ソングダイム、作曲レナード・バーンスタイン。一九五七年九月二日からニューヨークのブロードウェイでラリー・カートとキャロル・ローレンスの主演により七三四回続演された。六一年にはジェローム・ロビンスとロバート・ワイズの共同監督、ナタリー・ウッドとリチャード・ベイマの主演で映画化され、アカデミー作品賞を受けた。シェークスピアの『ロミオとジュリエット』を現代に翻案、ニューヨークのウェスト・サイドを舞台に、アメリカ青年の集団ジェット組とそれに対立するプエルトリコ移民青年集団シャーク組との闘争に巻き込まれたトニーとマリアの悲恋物語に、現代アメリカの人種問題を含む一面をとらえている。ヒット曲は『マリヤ』『トゥナイト』『なにかが起る』『どこかに』など。

ウェストハイランドホワイトテリア West Highland white terrier 哺乳綱食肉目イヌ科の動物。家畜であるイヌの一品種で、イギリスのスコットランド地方が原産地である。昔からその地で小獣狩に用いられていた犬種で、一九〇〇年ごろにタイプが固定されたとみられている。立ち耳で、純白の剛毛に覆われ、四肢は短めで、軀幹は筋肉質、小柄なわりにはがっしりした感じの犬種である。尾は根元が太く先細りで、背が高くつき、びんとあがっている。テリア類に共通する活発な気質があり、最近わが国のドッグショーでもよく目にとまるようになってきた。体高二二〜三〇センチ、体重五・四〜八・一キログラムである。《増井光子》

ウェスト・バージニア West Virginia アメリカ合衆国、中東部の州。面積六万二九二九平方キロ、人口一九四万九千四百四十二(一九六〇)。北はペンシルベニア州およびメリーランド州と、南東部はバージニア州と、西部はケンタッキー州と、西はオハイオ州と、それぞれ接する。州都はチャールストン。最大の都市はハンティントン。その他主要都市としては、ホイーリング、パーカーズバーグ、クラークスバーグなど

がある。州の大部分はアパラチア山脈の中にあたり、州面積の約八〇％はアレゲニー高原である。東部はアパラチア山脈の縦谷地域で、州の標高の最高地点(スプリース・ノブ、一六六〇メートル)と最低地点(ハーパーズ・フェリー、三三三メートル)もこの地域内にある。アレゲニー高原をほぼ北に流れ、オハイオ川に合流するカナワ川、ニュー川、モノンガヘラ川は、州内の重要な河川交通路となっている。州の大部分は湿潤大陸性気候で、チャールストンの一月の平均気温は二・五度C、七月の平均気温は二四・四度C、年降水量は一〇九センチである。

州の約六〇％は森林で覆われ、農耕地はオハイオ川流域とアレゲニー高原の中の谷底、および東部のポトマック川流域に限られる。おもな農産物はリンゴ、干し草、トウモロコシ、タバコであるが、販売額の多いのは肉牛、畜産品、リンゴ、鶏卵である。鉱物資源が多く、瀝青、炭、天然ガス、珪砂、陶土、岩塩などを利用して、鉄鋼業、ガラス工業、化学工業が発達している。

州の開発は、一六七〇年代の白人の毛皮商人などによる探検から始まったが、東部にある山地のためイギリス系植民者の入植が遅れ、一七三〇年ごろにペンシルベニアからのドイツ系植民者が、ポトマック川沿いに最初の町を建設した。一八世紀中ごろから、イギリス系植民者がアレゲニー高原を越えて西部の開拓を進めた。一八六三年、バージニア州から分離して合衆国三五番目の州となった 《菅野峰明》

ウェストバック WESTPAC ユネスコ(国連教育科学文化機関)にある政府間海洋学委員会が主催する西太平洋海域の調査、開発計画のための国際組織。Western Pacific の略である。日本をはじめ、韓国、中国、フィリピン、香港、マレーシア、シンガポール、タイ、インドネシア、ニュージーランド、フィジー、西サモアのほか、アメリカ、ソ連、オーストラリア、フランスの一六か国が参加している。傘下に、海洋物理、海洋生物、海洋汚染、および海洋地質・地球物理の四分科会を置き、計画を立案している。《安井正》

ウェスト・ハム West Ham イギリスの首都大ロンドンの区の一〇ニューハムの一部。↓ニューハム

ウェスト・パーム・ビーチ West Palm Beach アメリカ合衆国、フロリダ州南東部の

保養都市。人口六万二五三〇(一九六〇)。ワース湖に面し、対岸のパーム・ビーチと橋で結ばれている。航空、電子部品の研究と生産の中心地でもある。一八九三年、パーム・ビーチの商業地区として開発された。オキチョビー湖まで運河が通じ、エバーグレイズ国立公園への入口となっている。近くにはパーム・ビーチ国際空港がある。《菅野峰明》

ウェストファリア Westphalia 西ドイツ中西部、ノルトライン・ウェストファールン州北東部の地方の英語名。↓ウェストファールン

ウェストファリア王国 —おうこく ナポレオン一世のヨーロッパ大陸制覇の結果、ドイツに一八〇七年から一三年まで成立した王国。ナポレオンは、プロイセンを敗北させたのち、そのエルベ川西方の領土、ヘッセ・カッセル、ブラウンシュヴァイク、ハノーバーなどをあわせて、弟ジェロームを王とした。ウェストファリア Westphalia は、この一部が含まれるにすぎず、首都はカッセル。フランスに類似した統治が敷かれたが、主として現地のドイツ人が衝にあたり、ライオン同盟に加入していた。ジェロームは、兄の期待に反して無能であつたうえに、フランスによる徴兵や、大陸封鎖による経済事情の悪化が住民を苦しめ、民心は離反した。一八一三年、ナポレオンを敗北させた連合軍に占領され、事実上、滅亡した。《山上正太郎》

ウェストファリア条約 —じょうやく 三十年戦争(一六一八〜一六四八)を終結させた条約。講和会議は、一六四五年からドイツのウェストファリア Westfalen (ウェストファリア Westphalia は英語名) 地方のミュンスターとオスナブリュックとに分かれて開かれていたが、四年一月一〇月二四日ようやく調印された。この条約により、スウェーデンは西ポンメルンとブレメン大司教領、フェールデン司教領などを、フランスはメス、トゥール、ベルダン、三司教領とアルザスのハプスブルク家領を獲得し、ブランデンブルクは東ポンメルン、マクデブルク大司教領、ミンデン司教領などの領有を、バイエルンは南フアルツの領有と選帝侯位を認められ、スイスとオランダは独立国の地位を承認された。また、教会領については、一六二四年の状態に戻すことが決められ、また一五五五年のオウクスブルクの和議で否認されたカルバン派もルター派と同じ資格で承認され



ウェストファリア条約
三十年戦争終結のため
ミュンスターで開かれ
た講和会議（1648年1
月30日）。テルボリヒ筆
ベルサイユ美術館

た。そのほか、ドイツの領邦諸侯と帝国都市は、皇帝と帝国を敵としない限りという条件付きながら、相互の間で、また外国とも同盟する権利を認められた。この条約の結果、それまでヨーロッパで優越的な地位を占めていたハプスブルク家の勢力は後退し、フランスとスウェーデンが強国として台頭するとともに、ドイツ内部ではブランデンブルクの勢力が伸張することになった。一方、ドイツ帝国（神聖ローマ帝国）内の分立主義はいよいよ決定的となり、帝国は名目的存在にすぎなくなった。↓三十年戦争

《中村賢二郎》

ウェストファールン Westfalen 西ドイツ中西部、ノルトライン・ウェストファールン州の北西部の地方。英語名ウェストファリア Westphalia。中世にザクセン人が占拠した三つの部族地方ウェストファールン、オストファールン、エンゲルンの一つで、七七五年に初めて記録に現れる。ほぼ現在のウェストファールン地方に、ニーダーザクセン州の旧オスナブリュック県を加えた範囲である。ウェストファールン

レンは中世以来、政治的統一を欠いたが、共同体意識は保持され、住民の気質、文化、宗教や、社会的、政治的結合にそれが表れている。たとえばラインラント人が開放的で移り気であるのに対し、ウェストファールン人は寡黙、鈍重、沈着であると考えられている。建築様式にも特色をもっている。現在リッペ地方とともにウェストファールン・リッペ地方連合を形成し、その長と議会をもち、文化財、方言、慣習などの保存に努め、その中心はミュンスターにある。

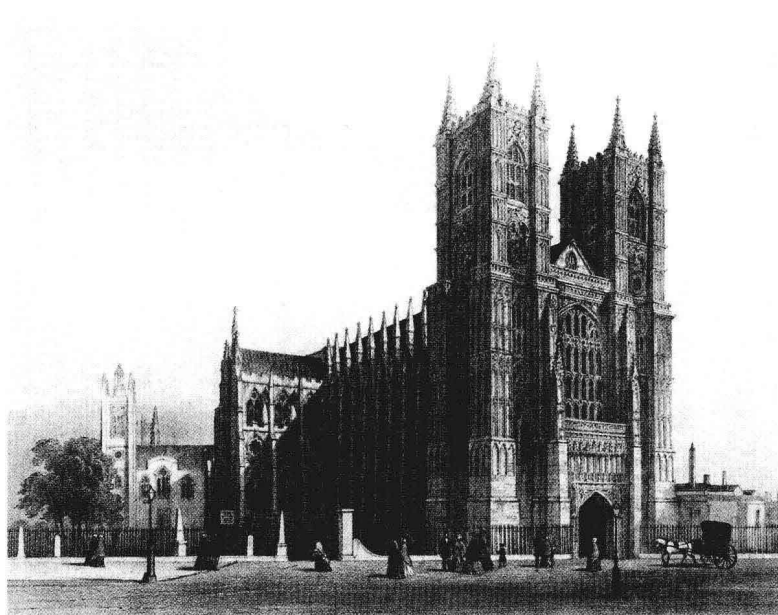
↓ノルトライン・ウェストファールン《齋藤光格》
〔歴史〕中世初期にはオストファールンとともにザクセン族の居住地で、九世紀以後ザクセン公国の一部を形成して、ライン川以东ウエーザー川に達する地域を含んでいた。一一八〇年ハインリヒ獅子公の没落後、多くの教会領、世俗領に分裂し、ウェストファールン公国、ミュンスター、オスナブリュック、パーダーボルン、ミンデンの四司教領、ラーフェンスブルク、マルク、ワルデック諸伯領その他小領邦が並存することになった。このうちウェストファールン公国はその名称にもかかわらず、ザウアーラントの一部を含むにすぎず、ケルン大司教によって統治された（一八〇二年ヘッセン・ダルムシュタットに併合）。以後ウェストファールンは政治的統一を欠いたままであり、またその一部は外部勢力の領土となったが、地域的な共同体意識は、政治、文化の面ではぐくまれ維持されたことに注意しておかねばならない。

近代に入って、ティルジット条約（一八七〇年）後、ナポレオンは、ウェストファリアの一部とそれに隣接する地域とでウェストファールン王国（首都カッセル）をつくり、弟のジェロームを王として、ナポレオン法典の施行その他を通じてフランス化を図った。一八一五年ウィーン会議の決定によってプロイセンがウェストファールンの大部分を与えられて、そこに一州をつくった。一九四六年ライン州北部と併合されて、ノルトライン・ウェストファールン州に編成された。

ウェスト・ベンガル West Bengal

西ベンガル

ウェストポート Westport アイルランド共和国西部の市場町。クルー湾の湾奥に広がる低地に位置する。人口三三七八（一九九〇）。分級されていない氷礫土からなる狭長な丘陵（ドラムリン）と湿地が卓越し、小農による混合農業が営まれる。ダブリンから放射状に広がる



ウェストミンスター寺院 つねにこの地区の中心的存在となってきたウェストミンスター寺院の19世紀の姿。リトグラフ（R. Ackermann's Series 1851）

る軽便鉄道の終着駅であるため、紡績、衣料縫製、皮革加工などの中小企業が立地する。政治家思想家トマス・ホブズの生地。《米田 巖》

ウェスト・ミッドランズ West Midlands

イギリス、イングランド中部のメトロポリタン・カウンティ（大都市圏）。面積八九九平方キロ、人口二六四万四六三四（一九九〇）。バークシャー、コベントリー、ダドリーなどの重要な工業都市がそのなかに含まれ、ブラック・カンタリーの中枢を占めている。居住の歴史はローマ時代に始まり、一六世紀以降は金属細工、一八世紀以降は製鉄業がおこなったが、豊富な石炭と鉄鉱石の埋蔵に恵まれ、一九世紀にはイギリス第一の工業地帯となった。↓ブラック・カンタリー

ウェストミンスター City of Westminster

イギリスの首都大ロンドンの区の一つ。正式にはシティ・オブ・ウェストミンスターとよばれる。面積約二平方キロ、人口一九万〇六六（一九九〇）。東のシティ・オブ・ロンドンがイギリスの金融・貿易の中心であるのに対し、

ウェストミンスターは政治の中心である旧ウェストミンスター地区と、商業・サービス業が集まるウェスト・エンド地区とからなる。旧ウェストミンスター地区には一九世紀ごろから、裁判所、議会、中央官庁が集まり、イギリスの国政の中心となっている。ナショナル・ギャラリー、ロイヤル・アルバート・ホール、コベント・ガーデン劇場などの文化施設や、バッキンガム宮殿、ウェストミンスター寺院など由緒ある建築物のほか、レストランやホテル、劇場、各種商店が集中し、四季を通じて観光客が絶えない。《井内 昇》

〔歴史〕旧ウェストミンスター地区は、古くはソーニー島とよばれるテムズ川左岸の島で、その西は沼沢地であった。ウェストミンスター寺院は、六〇四年ごろエセックスのサエルフト王がその島にセント・ピーター教会を建てたことに由来する。デーン人の侵入による破壊のち、一〇世紀の修道院復興時代に、九五一年エドガー王がベネディクト派修道院として復興した。一一世紀前半にクヌート王が修道院近くに宮殿を建てたが、エドワード懺悔王の時代に、修道院と宮殿を壮大に改築して以来、この地がイギリス国政の中心となった。ノルマン・コンクエスト（一〇六六）のち、ウィリアム一世がこの修道院で戴冠式をあげて以来、歴代イギリス王の戴冠式の場となった。ウィリアム二世が建てた宮殿のホールは重要な法廷の場となり、リチャード二世の退位、トマス・モア、チャールズ一世の処刑などの宣告が行われた。一三世紀ごろから修道院の聖体容器礼拝堂が国庫収納所となり、僧会堂が庶民院の場となったが、一五二二年宮殿の火災後、宮殿は王宮として用いられなくなり、庶民院を宮殿の一室に吸

収して宮殿が議会議事堂となった。修道院は、ヘンリー三世以後の王の墓所でもあったが、一五三九年ヘンリー八世の修道院解散によって修道院の所領は没収された。ハイド・パーク、セント・ジェームズ・パークは彼によって王の狩猟地として開かれた旧修道院領。彼がセント・ジェームズ宮殿を王宮としたころから政府高官も周辺に邸宅を構えるようになった。パッキンガム宮殿はビクトリア女王以後の王宮である。

↓ウェストミンスター寺院 《富沢霊岸》

ウェストミンスター憲章 — けんしょう

Statute of Westminster 一九三一年 二月一日に成立した、イギリスとイギリス連邦内の自治領との関係を定めた法律。第一次世界大戦後、イギリス帝国内自治領のイギリス本国からの自立化傾向は、とくに南アフリカ連邦と新自治領アイルランド自由国を中心に強まりをみせた。そのなかで一九二六年に開かれた帝国会議は、イギリスと各自治領とが、イギリス連邦の構成メンバーとして互に同等の地位を有していることを確認した。ウェストミンスター憲章はこの原則を法制化したもので、イギリス議会が自治領諸国に対して優越権をもたないことをはきり規定した。これにより、自治領の制定した法律がイギリスの法律と矛盾するとして無効になることはなくなった。

《木畑洋一》

ウェストミンスター寺院 — じいん

Westminster Abbey ロンドンにあるイギリスの戴冠式聖堂。正式名称は Colligate Church of St. Peter in Westminster である。創建は七世紀にさかのぼるが、十一世紀になってエドワード懺悔王によって一度再建され、現在の建物はヘンリー三世の発案により、ヘンリー・オブ・レーンズの設計をもとにして一二四五年に起工、六九年に完成、献堂されたもの。しかしその後も増築が繰り返され、西側正面はヘンリー・イエベルの設計により一四、五世紀に建立され、ついで一五〇三〜一二年には後陣にヘンリー七世礼拝堂が増築、最終的に鐘塔が完成したのは一七三四年のことである。

寺院内部は壁面も床も歴史上の人物の墓碑、記念碑で埋まっている。正面入口を入って最初にあるのがチャールズ記念碑、その左手に労働党指導者アトリー、マクドナルド、ペパンらの記念碑、そのすぐ奥にアフリカ探検家として業績のあったリビングストンの墓がある。中央オルガンの左手は科学者ニュートンの墓碑。翼廊

左手にはウィリアム・ピット、グラッドストーンなど往時の宰相が祀られ、反対側の一部は通称「詩人のコーナー」とよばれ、チョーサー、ブレイク、ロングフェロー、ブラウニング、バイロンなど、続いてスコット、ヘンデル、キーツ、シェリーといった著名な作家、詩人、音楽家の墓碑群が並んでいる。

《濱谷勝也》

ウェストミンスター信仰告白 — しん

Westminster Confession ウェストミンスター会議によって一六四六年二月四日に完成された信仰告白。一部修正のうえ、一六四八年六月二〇日に議会によって承認され、王政復古によって廃止されるまで全イングランド教会の信仰規程であった。しかし、その後も今日に至るまで、イギリス、アメリカの長老派の信仰規程となっており、その構成もよく似ている。内容は、聖書原理に始まり最後の審判までキリスト教のほとんどすべての教義に及んでおり、その神観、予定説などにカルバン主義の信仰が強調されている。

《曾根曉彦》

ウェストモアランド William Childs

Westmoreland (カネー) アメリカの軍人。一九三六年陸軍士官学校を卒業。第二次世界大戦中ヨーロッパ戦線で活躍。大戦後、第八二空輸師団参謀長、陸軍士官学校長などを歴任。六四年から南ベトナム派遣米軍総司令官。「索敵殲滅作戦」を指揮。最大限五五万まで兵力を増強し、米軍勝利にあくまで固執した。六八年七月に召還され、陸軍参謀総長に就任。七年退役。

《藤本 博》

ウエスト・ヨークシャー West York-

shire イギリス、北部イングランドのメトロポリタン・カウンティ(大都市県)。ペニン山脈東麓に位置する。面積二〇三九平方キ、人口二〇六万七六四二(一九八〇)。先史時代から農業が営まれたが、中世に牧羊と結びついて羊毛業がおこり、産業革命を経てイギリスの主要な繊維工業地帯となった。羊毛業はすでに斜陽化した。現在でもイギリスでは最大の規模をもつ。石炭の産出も多く、ブラッドフォード、リーズ、ウェイクフィールドなどの工業都市が発達した。

↓ヨークシャー 《井内 昇》

ウエストレーク John Westlake (ハバ

際法学者。ケンブリッジ大学を卒業後弁護士となる。一八八八年同大学の国際法ヒューエル講座担当教授に迎えられる。一九〇八年まで務め、常設仲裁裁判所裁判官にも登録された。国際私法にも造詣が深く、一八五八年『国際私法研究』を著した。国際法の主著には『国際法の諸原則』について(一九〇四)、『国際法 平時』(一九〇四)、『国際法 戦時』(一九〇四)がある。

《池田文雄》

ウエスタン Edward Weston (ハバ

三) アメリカの発明家。イングランド西部のシュロップシャーに生まれ、医学を修め、一八七〇年アメリカに渡った。物理学や化学への興味から、ニッケルめっきの会社に入り、そこでめっき用電源としてダイナモを利用することを思い付き、独立して会社を設立し、発電機の改良を手がけた。電流測定用に安定度の高いカドミウム電池を開発した。これはウエスタン標準電池として広く知られている。

《高橋智子》

ウエスタン Walter Weston (ハバ

四) イギリス人牧師。日本近代登山の父といわれる登山家。ケンブリッジ大学を卒業。一八八九〜九四年、一九〇二〜〇五年、一九一〜一五年の三回、神戸と横浜に牧師として滞在中に、日本アルプスや富士山、それに九州などの山々に登り、一八九六年『日本

アルプス・登山と探検』をロンドンのJ・マレー社から発行、日本アルプスの名を世界に広めた。また小島鳥水らと日本山岳会結成のために尽くし、一九一〇年(明治四三)日本山岳会最初の名譽会員となる。一七年イギリス王立地学協会からも日本アルプス開拓の功によりバック・グラント賞を受賞。イギリス山岳会会員。著書はほかに『極東の遊歩場』『Japan』などがある。三七年北アルプス上高地の梓川畔にレリーフがたたられ、第二次世界大戦後は毎年六月の第一日曜日に「ウエスタン祭」が行われる。

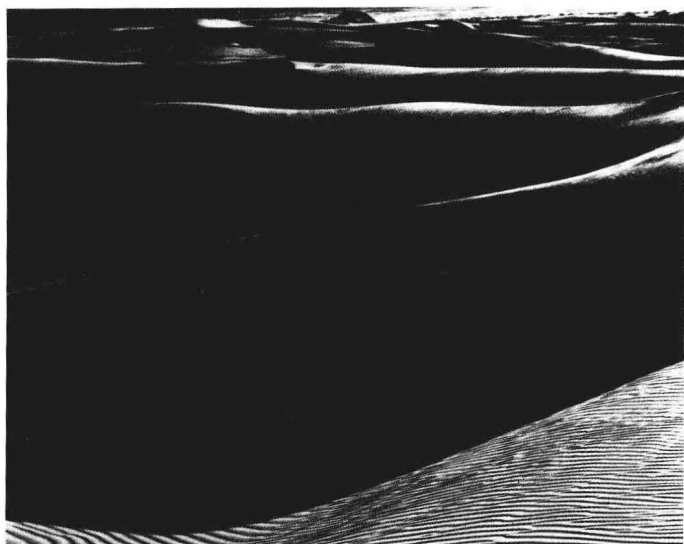
《徳久球雄》

田村精一 訳『極東の遊歩道』

(二六四・山と溪谷社)

ウエスタン Edward Wes-

ton (ハバ一九六) アメリカの写真家。大型カメラによる精緻

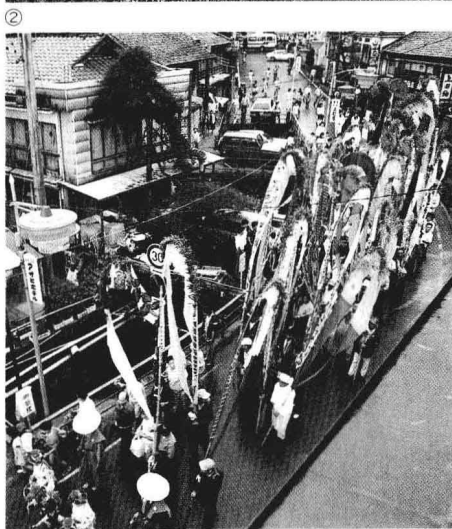
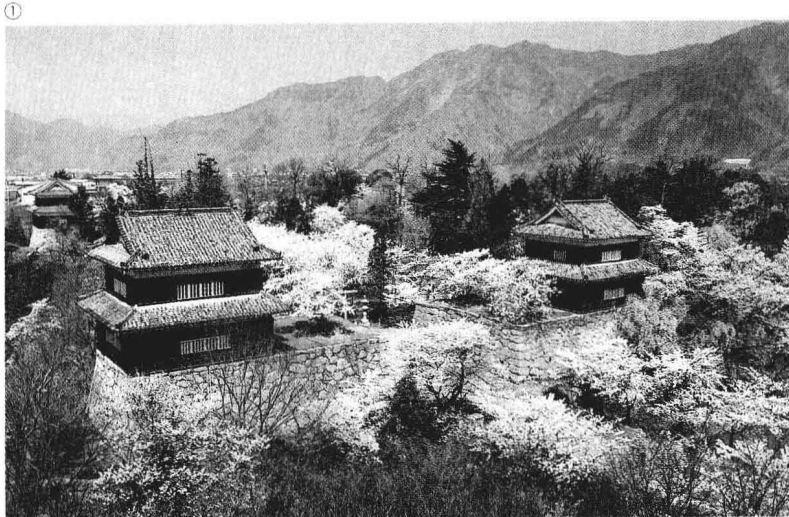


E. ウェスタン 『砂丘』 1935年



W. ウェスタン

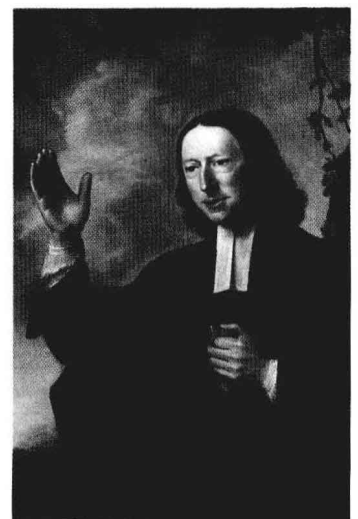
緻で即物的な描写を通じて、造形的かつ抽象的に事物の内在感を表現し、近代写真に多大の影響を残した。イリノイ州ハイランドパークに生まれる。一八歳でカリフォルニアに移り写真を始め、初期には軟調なポートレートを撮っていたが三〇歳代にのちに知られる作風に移行した。一九二二年から三年間メキシコに住み、リベラやシケイロスらの国民的芸術家に接し、精神面での影響を受け、極限まで精密に写す作風を確立した。三二年にはポール・ストランドやアンセル・亚当ズらと『64』グループを結成、「ストレート・フォト」(純粋写真)の究明を目指した。代表作に、三〇年代の野菜や貝殻をモチーフとしたもの、その後の一連のヌード、カリフォルニア州のポイント・ロボス海岸



上田市 ①上田城跡。上田駅の北西1kmにある平城で、尼ヶ淵城ともよばれる。堀と土居に囲まれた本丸跡には三棟の櫓、真田神社や真田井戸などが残る
 ②岳の織。7月15日ごろ別所温泉で行われる雨乞行事。室町時代のひどい干魃のおり、夫神岳山頂の九頭竜権現に降雨を祈願したのに始まる。色とりどりの織はその時、お礼として献じた布にちなむ
 ③安楽寺八角三重塔。別所温泉にある安楽寺本堂の北東の山腹に立つ。純粋な禅宗様式でわが国に現存する唯一の貴重な遺構。初層に菱窓があるため四重塔のようにみえる。 国宝

や「死の谷」の砂漠で撮った自然の形象をテーマにしたシリーズなどがある。〈平木 収〉
ウェストン電池 —でんち
 標準電池
ウェスパシアヌス Titus Flavius Vespasianus (カエサル) ローマ皇帝(在位69～79)。騎士身分の父と元老院議員の妹を母として、サビニ地方レアテに生まれる。コンスル、アフリカ総督を経て、六七年ユダヤの反乱鎮圧の総司令官に任命された。六八年ネロ帝の死後、ガルバ、オトが相次いで倒され、ウィテリウスが帝位につく。及びアレクサンドリアの軍団により皇帝に推戴された。ドナウ川方面の軍団をローマに進軍させ、ウィテリウスを倒し、元老院から承認された。彼は、内乱のために炎上したカピトリウス神殿の再建やコロセウムなどの建設を行い、帝国は秩序と繁栄を回復した。息子ティウスとドミティアヌスを後継者と定め、フラウィウス朝を開いた。〈市川雅俊〉
ウェスリー John Wesley (1703～1791) プロテスタントの大教派の一つであるメソジスト教会の創始者。ウェスレーともいう。イギリス国教会の司祭の子として生まれる。彼自身も司祭として生涯、国教会にとどまったが、彼の死後に、国教会から分離したメソジスト教会の前身であるメソジスト運動を、弟のチャールズとともに始めた。メソジストという名称は、オックスフォード大学の助教授時代に信仰に熱心な学生たちとつくった「神聖クラブ」が規律(メソド) 正しい生活をしていくことからつけられた。一七三五年ウェスリーは、当時イギリスのアメリカ植民地ジョージアに宣教師として赴き、伝道に失敗して二年後に帰国。そのあとドイツの敬虔派モラビア兄弟会を訪問してから、生きた信仰を与えられた回心を経験する。それからのウェスリー

は聖化された完全な生活を目ざす活力ある信仰を人々に説く、熱烈な伝道説教者となった。形式的な国教会で許されない場合には路傍や野外で大衆に向かって説き、三二万にわたる伝道旅行中に四万回以上も説教している。
 ウェスリーのメソジスト運動と教会は、イギリスでは産業革命の進展を背景に労働者大衆の間に、アメリカでは西部開拓者の間にリバイバル(信仰復興)をもたらし、社会的にも大きな影響を及ぼした。↓メソジスト派 ↓モラビア兄弟会
 藤井孝夫他訳『ウェスレー著作集』全七巻(カネ・新教出版社)▽野呂芳男著『ウェスレー』(カネ・日本基督教団出版局)▽同著『ウェスレーの生涯と神学』(カネ・日本基督教団出版局)
ウェセックス王国 —おうこく King-
 dom of Wessex アングロ・サクソン七王国(ヘプターキー)の一つ。四九五年ごろセルデックがイギリス南部に上陸し、五一九年に建国。キウリン王(五〇一～五〇九)は南部イギリスの覇王となる。イネ王(六八七～七〇六)は著名な法典を出して発展の基礎を開き、エグベルト王がマシア、ノーサンブリアを破って七王国の統一の基礎をつくった。その後デーン人の侵入に苦しまが、アルフレッド大王がデーン王グスラムの攻撃に耐え、イングランド統一の気運を醸成した。
ウェーゼル作戦 —やくせん Weserth-
 ing 第二次世界大戦中、ドイツにより企てられ実施された北欧侵攻作戦。そのねらいはスウェーデンからドイツへの鉄鉱石輸送路の確保、イギリス軍の北進阻止などであった。一九四〇年四月九日朝、ドイツ軍は最後通告とともにデンマークへは陸路から侵入し、ノルウェー



ウェスリー N.ホーン画 ロンドン
 ナショナル・ポートレート・ギャラリー